BUSICOM

BC-NL3000UⅡ
卓上 QR バーコードリーダー

ユーザーガイド V1.0.1

免責事項

製品をご使用前に取扱説明書をよくお読みいただき、取扱説明書に従って操作してください。
今後のご使用のために取扱説明書を大切に保管してください。

スキャナーを解体したり、スキャナーからシリアルのラベルやロゴをはがしたりしないでください。
その場合、ビジコムの保証の対象外となります。

この取扱説明書の写真は実際の製品と内容が異なる場合がございます。本製品の修正とアップデートについて、当社は、信頼性、性能、設計の改善のためソフトウェアまたはハードウェアをいつでも予告なくアップデートすることができます。ここで告知するアップデート情報は、事前告知を行わない変更が対象です。

この取扱説明書で説明する製品が当社またはサードパーティが著作権を有するソフトウェアが含まれている場合があります。お客様は個人または法人を問わず、著作権者から書面による同意を得ていない場合、当該ソフトウェアの全体または一部を流通、改造、逆コンパイル、逆アセンブル、解読、リバースエンジニアリング、貸与、譲渡またはサブライセンスが禁止されています。

この取扱説明書は著作権を有しております。当社から書面による許可を得ていない場合、方法を問わず内容の複製、流通または利用を禁止します。

当社は上記免責事項について最終的な解釈権を有しています。

株式会社ビジコム

https://www.busicom.co.jp

Copyright ©2023 BUSICOM Co., Ltd. All Rights Reserved.

改訂履歴

バージョン	内容	改訂日
1.0.0	初版	2021 年 11 月 10 日
1.0.1	ストップキャラクタサフィックス→終端サフィックスに表現変更	2022 年 03 月 31 日
1.0.2	Code128 のチェックデジット送信を削除	2023 年 03 月 28 日
1.0.3	免責事項の改定	2023 年 06 月 09 日

目次

改訂履歴 3
目次 4
概要・各章紹介 13
概要 13
各章紹介 13
マークとその意味 13
第 1 章　使用前の準備 14
概要 14
特徴 14
内容物確認 14
BC-NL3000UⅡ バーコードリーダー 14
寸法 (単位: mm) 15
バーコードリーダーを端末へ接続 16
USB ケーブルを使用 16
RS-232 ケーブルを使用 17
電源のオン・オフ、再起動 18
メンテナンス 18
第2章　システム設定 19
概要 19
バーコードプログラミング 19
コマンドプログラミング 19
設定バーコード/プログラミングコマンド/機能 19
プログラミングコマンドの使用 20
コマンド構文 20
クエリコマンド 21
レスポンス 21
設定バーコードの利用 23
照明 24
正常読み取り LED 25
正常読み取り LED の持続時間 25
電源ブザー 27
正常読み取りブザー 27
正常読み取り ブザー音の長さ 28
正常読み取り ブザーの音域 29
正常読み取り ブザー音量 30
スキャンモード 31
読み取りのタイムアウト 33

手ぶれ補正のタイムアウト（センスモード）.....34
読み取り間隔のタイムアウト（連続モード）.....35
読み取り間隔のタイムアウト（同一バーコードの場合）.....36
GS1 アプリケーション識別子 (AI)の括弧を出力する.....38
センスモードの感度.....39
自動スリープ.....40
スキャン設定.....41
電源を入れた後バーコード読み取り.....42
バーコード読み取り 有効／無効.....42
読み取りエラーメッセージ.....43
読み取りエラーのメッセージ設定.....43
初期設定.....44
カスタムデフォルト.....44
製品情報の確認.....45
第3章 RS-232.....47
概要.....47
ボーレート.....47
パリティチェック.....48
データビット.....49
ストップビット.....49
第4章 USB インターフェース.....50
概要.....50
USB HID キーボード.....50
USB 国別キーボードタイプ.....51
ブザーによる不明な文字の警告.....54
EmulateALT+キーボード.....55
コードページ.....56
Unicode エンコーディング.....58
先頭 0 付きキーボードエミュレーション.....58
ファンクションキーマッピング.....59
ASCII ファンクションキーマッピング表1.....60
ASCII ファンクションキーマッピング表2.....61
文字間のディレイ.....62
大文字・小文字の変換.....64
テンキーのエミュレート.....65
ポーリングレート.....67
USB CDC（シリアル通信）.....68
HID POS (POS HID バーコードバーコードリーダー).....68
VID/PID.....70
第5章 シンボル.....71

概要 71
グローバル設定 71
すべてのシンボルを有効 / 無効 71
1D シンボルを有効 / 無効 71
2D シンボルを有効 / 無効 72
ビデオリバース（映像反転） 72
Code 128 73
工場出荷時の状態に戻す 73
Code 128 を有効 / 無効 73
Code 128 の桁数範囲指定 74
チェックキャラクタの送信 75
JAN-8 76
工場出荷状態に戻す 76
JAN-8 を有効 / 無効 76
チェックキャラクタの送信 76
2 桁のアドオンコード 77
5 桁のアドオンコード 78
アドオンコード必須 78
JAN-13 79
工場出荷状態に戻す 79
JAN-13 を有効 / 無効 79
チェックキャラクタの送信 80
2 桁のアドオンコード 80
5 桁のアドオンコード 81
アドオンコード必須 81
290 で始まる JAN-13 バーコードのアドオンコード必須 82
378 または 379 で始まる AN-13 バーコードのアドオンコード必須 82
414 または 419 で始まる AN-13 バーコードのアドオンコード必須 83
434 または 439 で始まる AN-13 バーコードのアドオンコード必須 83
977 で始まる AN-13 バーコードのアドオンコード必須 84
978 で始まる AN-13 バーコードのアドオンコード必須 84
979 で始まる AN-13 バーコードのアドオンコード必須 85
UPC-E 86
工場出荷状態に戻す 86
UPC-E を有効 / 無効 86
チェックキャラクタの送信 87
2 桁のアドオンコード 87
5 桁のアドオンコード 88
アドオンコード必須 89
プリアンブルキャラクターの送信 89

UPC-A 90
工場出荷状態に戻す 90
UPC-A を有効 / 無効 90
チェックキャラクタの送信 90
2 桁のアドオンコード 91
5 桁のアドオンコード 92
アドオンコード必須 93
プリアンブルキャラクターの送信 93
Interleaved 2 of 5（ITF） 94
工場出荷状態に戻す 94
Interleaved 2 of 5 を有効 / 無効 94
Interleaved 2 of 5（ITF）の桁数範囲指定 95
チェックキャラクタの送信 96
Febraban 97
Febraban を有効 / 無効 97
文字間のディレイ 97
12 文字のディレイ 100
ITF-14 102
工場出荷状態に戻す 102
ITF-14 を有効 / 無効 102
ITF-6 103
工場出荷状態に戻す 103
ITF-6 を有効 / 無効 103
Matrix 2 of 5 104
工場出荷状態に戻す 104
Matrix 2 of 5 を有効 / 無効 104
Matrix 2 of 5 の桁数範囲指定 105
チェックキャラクタの送信 106
Code 39 107
工場出荷状態に戻す 107
Code 39 を有効 / 無効 107
Code 39 の桁数範囲指定 108
チェックキャラクタの送信 109
スタート/ストップキャラクタを送信 110
Code 39 Full ASCII を有効 / 無効 110
Code 32 (イタリア製薬業界用コード)を有効 / 無効 111
Code 32 プリフィックス 111
Code 32 スタート/ストップキャラクタの送信 112
Code 32 のチェックキャラクタを送信 112
NW7（CODABAR） 113

工場出荷状態に戻す....113
NW7（CODABAR）を有効 / 無効....113
NW7（CODABAR） コードの長さ範囲設定....114
チェックキャラクタの送信....115
スタート/ストップキャラクタの送信....116
Code 93....117
工場出荷状態に戻す....117
Code 93 を有効 / 無効....117
Code 93 の桁数範囲指定....118
チェックキャラクタの送信....119
GS1-128 (UCC/EAN-128)....120
工場出荷状態に戻す....120
GS1-128 を有効 / 無効....120
GS1-128 の桁数範囲指定....121
チェックキャラクタを送信....122
GS1 Databar (RSS)....123
工場出荷状態に戻す....123
GS1 Databar を有効 / 無効....123
アプリケーション識別子「01」を送信....123
Code 11....124
工場出荷状態に戻す....124
Code 11 を有効 / 無効....124
Code 11 の桁数範囲指定....125
チェックキャラクタの送信....126
チェックキャラクタを送信....127
ISBN....128
工場出荷状態に戻す....128
ISBN を有効 / 無効....128
ISBN フォーマットを設定....128
2 桁のアドオンコード....129
5 桁のアドオンコード....129
アドオンコード必須....130
ISSN....131
工場出荷状態に戻す....131
ISSN を有効 / 無効....131
2 桁のアドオンコード....132
5 桁のアドオンコード....132
アドオンコード必須....133
Industrial 25....134
工場出荷状態に戻す....134

Industrial 25 を有効 / 無効 134
Industrial 25 の桁数範囲指定 135
チェックキャラクタの送信 136
Standard 25 137
工場出荷状態に戻す 137
Standard 25 を有効 / 無効 137
Standard 25 の桁数範囲指定 138
チェックキャラクタの送信 139
Plessey 140
工場出荷状態に戻す 140
Plessey を有効 / 無効 140
Plessey の桁数範囲指定 141
チェックキャラクタの送信 142
MSI-Plessey 143
工場出荷状態に戻す 143
MSI-Plessey を有効 / 無効 143
MSI-Plessey の桁数範囲指定 144
チェックキャラクタの送信 145
チェックキャラクタの送信 146
AIM 128 147
工場出荷状態に戻す 147
AIM 128 を有効 / 無効 147
チェックキャラクタの送信 147
AIM 128 の桁数範囲指定 148
PDF417 149
工場出荷状態に戻す 149
PDF417 を有効 / 無効 149
PDF417 の桁数範囲指定 150
PDF417 ツインコード 151
キャラクタエンコーディング 151
QR コード 152
工場出荷状態に戻す 152
QR コードを有効 / 無効 152
QR コードの長さ範囲設定 153
QR ツインコード 154
キャラクタエンコーディング 154
Micro QR コード 155
工場出荷状態に戻す 155
Micro QR を有効 / 無効 155
Micro QR コードの長さ範囲設定 156

Data Matrix 157
工場出荷状態に戻す 157
Data Matrix を有効 / 無効 157
Data Matrix コードの長さ範囲設定 158
Data Matrix ツインコード 159
長方形バーコード 160
キャラクタエンコーディング 160
第6章 データフォーマッタ 161
概要 161
データフォーマットを追加 161
バーコードでプログラミング 162
シリアルコマンドによるプログラミング 164
データフォーマッタを有効 / 無効 165
不一致エラー ブザー 166
データフォーマット選択 167
シングルスキャンでデータフォーマットを切り替え 168
データフォーマットをクリア 169
クエリデータフォーマット 169
6種類のフォーマッタコマンド 170
コマンド送信 170
F1 全ての文字の送信 170
F2 指定の文字数を送信 170
F3 特定文字まで全ての文字を送信 171
E9 最後の文字を除くすべてを送信 171
F4 文字を複数回挿入 171
B3 シンボル名の挿入 172
B4 バーコードの長さを挿入 172
移動コマンド 174
F5 カーソルを文字数前方に移動 174
F6 カーソルを指定の文字数分後ろに移動 174
F7 カーソルを先頭に移動 174
EA カーソルを最後に移動 174
検索コマンド 175
F8 文字列の前方検索 175
F9 文字の後方検索 175
B0 文字列の前方検索 176
B1 文字列の後方検索 176
E6 一致しない文字の前方検索 177
E7 一致しない文字を後方検索する 177
その他のコマンド 178

FB 文字数抑止 178
E4 文字の置換....179
BA 文字列を異なる文字列に置換....180
EF 遅延を挿入....182
B5 キーストロークの挿入....183
比較コマンド....184
B2 文字列を B@で比較....184
EC カーソルの右にある文字が数字か確認....185
ED カーソルの右にある文字が非数字か確認....185
FE 文字比較....186
第7章 プリフィックス&サフィックス....187
概要....187
グローバル設定....187
プリフィックスシーケンス....188
カスタムプリフィックス....188
カスタムプリフィックス の有効 / 無効....188
カスタムプリフィックスの設定....189
AIM ID プリフィックス....190
Code ID プリフィックス....190
全ての Code ID をデフォルトに復元....191
Code ID の変更....191
1 次元シンボル....192
2 次元シンボル....195
カスタムサフィックス....196
カスタムサフィックスを有効 / 無効....196
カスタムサフィックスの設定....196
データパッキング....197
概要....197
データパッキングオプション....197
終端サフィックス....199
終端サフィックスを有効 / 無効....199
終端サフィックスの設定....199
付録....201
数字バーコード 0~9....201
英字バーコード A～F....202
保存/キャンセル バーコード....203
工場出荷時のデフォルト設定....204
AIM ID テーブル....210
Code ID テーブル....211
シンボル ID 番号....212

ASCII テーブル.....213
Unicode キー配置表 216

概要・各章紹介

概要

このユーザーガイドでは BC-NL3000UⅡ卓上バーコードリーダー（以下、「BC-NL3000UⅡ」または「バーコードリーダー」）の設置方法と使用法を詳しく説明します。

各章紹介

第1章　使用前の準備：BC-NL3000UⅡの一般的特徴を説明します。

第2章　システム設定：3 つの設定方法を紹介し、BC-NL3000UⅡの一般的な設定について説明します。

第3章　RS-232：RS-232 通信の設定方法について説明します。

第4章　USB インターフェース：USB 通信の設定方法について説明します。

第5章　シンボル：各種シンボル一覧と関連する値の設定方法を説明します。

第6章　データフォーマッタ：高性能データフォーマッタでスキャンデータをカスタマイズする方法を説明します。

第7章　プリフィックス&サフィックス：プリフィックスとサフィックスでスキャンデータをカスタマイズする方法について説明します。

第8章　バッチプログラミング：複雑なプログラミングタスクを 1 つのバーコードに統合する方法を説明します。

付録：工場出荷時のデフォルト仕様表と、よく使用するプログラミング用バーコードを網羅しています。

マークとその意味

このマークはユーザーガイドに関連しています。

このマークは閲覧者に対して注意が必要であることを示しています。

このマークはバーコードリーダーを簡単に操作、設定できる便利なヒントを示しています。

このマークは操作方法を覚えるのに役立つ実例を示しています。

第 1 章　使用前の準備

概要

バーコードリーダーは画像を取得して 1 次元バーコードまたはニ次元バーコード（QR コード）を読み取ります。本製品は、感知モードと連続モード搭載でスキャン目的に応じて使い分けることができます。
本章に図によるバーコードリーダーの説明があります。本章は、一般ユーザー、保守作業員、ソフトウェアデベロッパーが対象です。

特徴

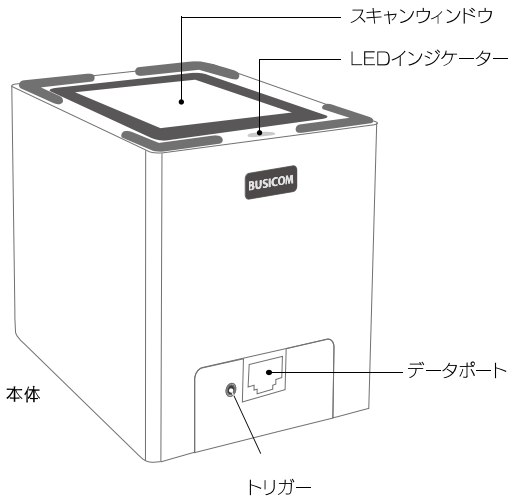
- スマートフォン画面の QR コード/バーコードの読み取りに最適なデスクトップバーコードリーダー
- 液晶画面でも紙面でもスムーズな読み取り
- 照度上限 10 万ルクスで屋外利用可能（夏の直射日光下で、約 10 万ルクス）
- 読み取り後は、自動スリープモードへ移行します。

内容物確認

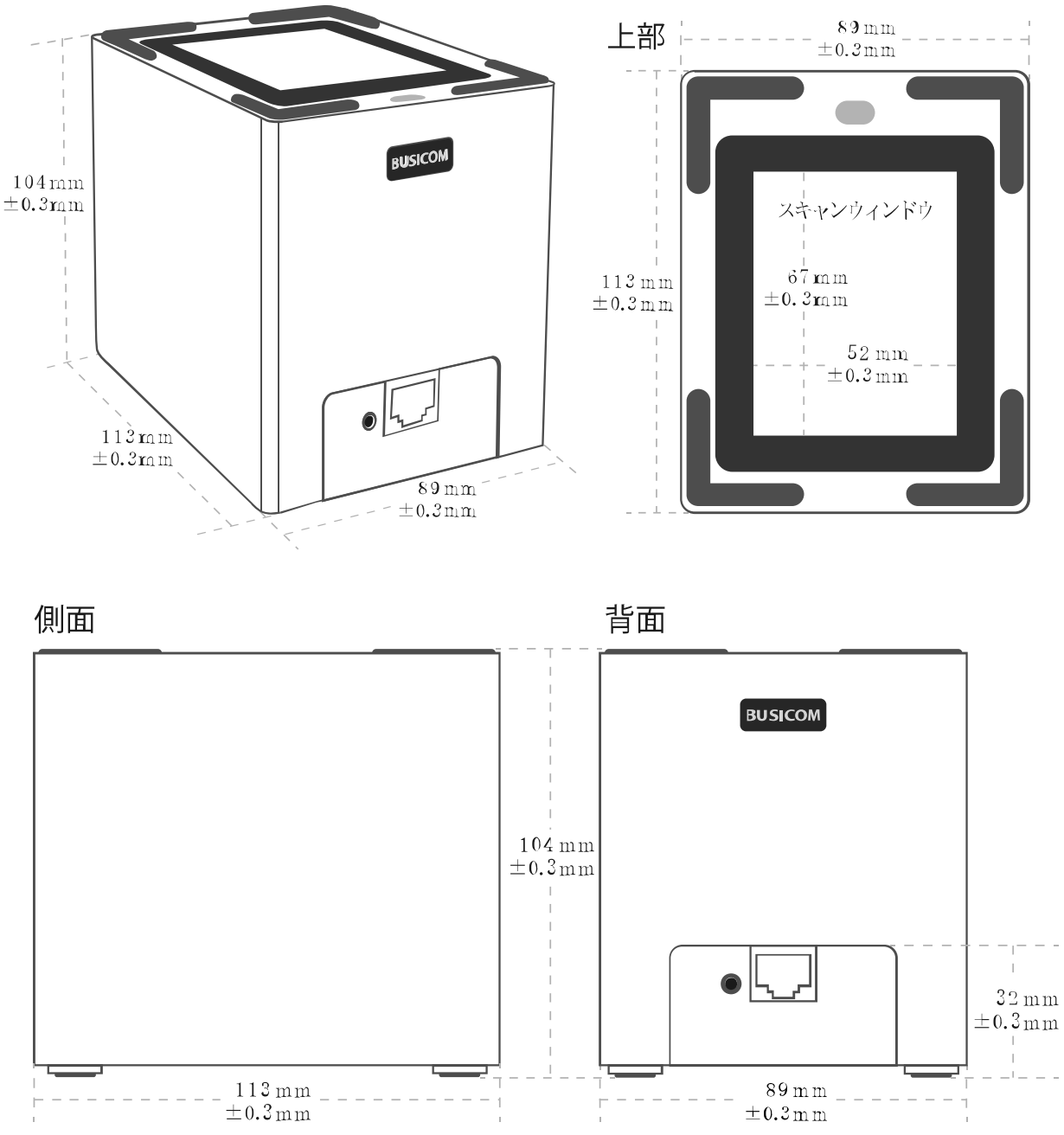
パッケージを開封してバーコードリーダーと付属品を取り出します。リストの同梱物が全て揃っていること、傷がないことを確認します。同梱物が損傷または不足している場合、パッケージを保管の上、直ちに販売店へご連絡願います。

BC-NL3000UⅡ バーコードリーダー

LED インジケーター 表示の意味	
LED の点滅繰り返し	電源がオン
LED の点滅	正常な読み込み



寸法 (単位: mm)


104mm
±0.3mm
113mm
±0.3mm
89mm
±0.3mm
BUSICOM
上部
89mm
±0.3mm
113mm
±0.3mm
スキャンウィンドウ
67mm
±0.3mm
52mm
±0.3mm
側面
背面
104mm
±0.3mm
113mm
±0.3mm
BUSICOM
32mm
±0.3mm
89mm
±0.3mm

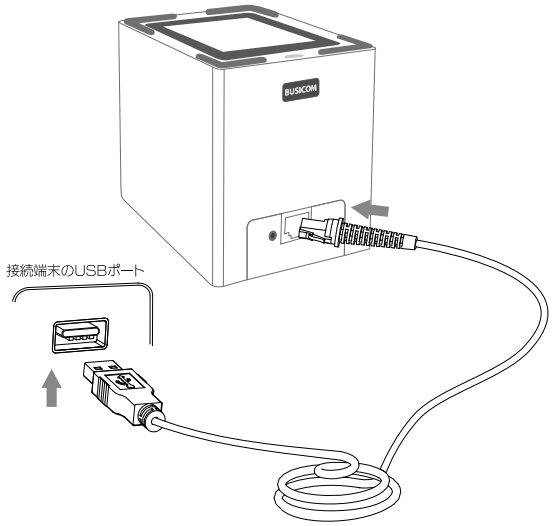
バーコードリーダーを端末へ接続

バーコードリーダーを使用する際は、PC や POS など USB ポート付き端末へ接続する必要があります。

接続端末の USB ポート

接続端末の RS-232 ポート

USB ケーブルを使用

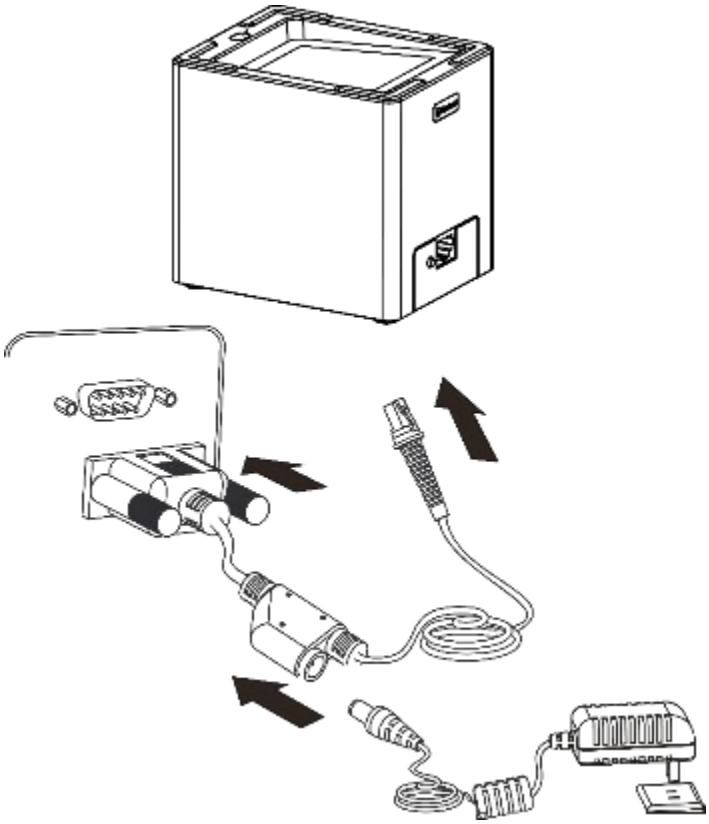


本製品 USB ケーブルは、RJ50 コネクタと USB コネクタが、各両端についております。それぞれ、バーコードリーダーと接続端末に接続して使用します。

1. RJ50 コネクタをバーコードリーダーのデータポートに差し込みます。

2. USB コネクタを接続端末の USB ポートへ差し込みます。

RS-232 ケーブルを使用



本製品 RS-232 ケーブルは、RJ50 コネクタ、RS-232 コネクタが、電源コネクタがついております。それぞれ、バーコードリーダー、接続端末と電源アダプタに接続して使用します。

1. RJ50 コネクタをバーコードリーダーのデータポートに差し込みます。
2. RS-232 コネクタを接続端末の RS-232 ポートに差し込みます。
3. 電源アダプタを RS-232 ケーブルの電源コネクタに差し込みます。

※RS-232 ケーブルとその電源アダプタは別売のオプションになります。

電源のオン・オフ、再起動

バーコードリーダーの電源オン

バーコードリーダーを接続端末へ接続します。

バーコードリーダーの電源オフ

ケーブルを接続端末から外します。

バーコードリーダーを再起動

バーコードリーダーが入力に反応しない場合や動作が異常な場合、バーコードリーダーの電源をオフにしてから再びオンにします。

メンテナンス

- ✧ スキャンウィンドウは常に清潔にしてください。
- ✧ スキャンウィンドウの表面をこすらないでください。
- ✧ 柔らかいブラシでスキャンウィンドウ表面の汚れを取り除いてください。
- ✧ メガネ拭きなど軟らかい布でウィンドウをきれいにしてください。
- ✧ スキャンウィンドウに液体を吹きかけないでください。
- ✧ 本体の他の箇所へ水以外の洗剤を使用しないでください。

誤ったお手入れやメンテナンスによる損傷は**保証の対象外**になります。

第２章　システム設定

概要

BC-NL3000UⅡの設定方法はバーコードプログラミング、コマンドプログラミングの2種類があります。

バーコードプログラミング

BC-NL3000UⅡはバーコードをスキャンして設定します。ユーザーが設定可能な機能とオプションを、設定バーコード、コマンドと併せて説明します。

この設定方法はわかりやすいですが、バーコードを手動で読み取る必要があるため、設定ミスが発生しやすいので、注意が必要です。

コマンドプログラミング

BC-NL3000UⅡ は、接続端末からシリアル コマンドでも設定できます。

設定コマンドをバーコードリーダーに送信し、デバイス設定を行うアプリケーションを設計できます。

設定バーコード/プログラミングコマンド/機能

上の図は、設定用バーコードとコマンドの例です。

1. バーコードリーダーの設定バーコード
2. バーコードリーダーの設定コマンド
3. 設定／機能の説明
4. ** は工場出荷時の設定です

@SETUPE1

Enter Setup

プログラミングコマンドの使用

バーコードを使った設定方法の他に、接続端末から受け取るシリアルコマンド（HEX）でも
バーコードリーダーの設定が可能です。**コマンドは、全て大文字で入力する必要があります。**

コマンド構文

Prefix StorageType Tag SubTag {Data} [,SubTag {Data}] [;Tag SubTag {Data}] […] Suffix

Prefix: “~<SOH>0000” (HEX: 7E 01 30 30 30 30)、6 文字。

Storage type:「@」(HEX: 40) または「#」(HEX: 23), 1 文字。

「@」は永続的な設定です。バーコードリーダーの電源オフで設定が失われないことを意味します。

「#」は一時的な設定であり、バーコードリーダーの電源オフで設定が失われることを意味します。

Tag: 目的のコマンドグループを識別する 3 文字の大文字と小文字を区別するフィールドです。例えば、USB HID Keyboard の設定は、全て KBW というタグで識別されます。

SubTag: タググループ内の目的の設定値を識別する 3 文字の大文字小文字を区別するフィールドです。例えば、キーボードレイアウトのサブタグは CTY です。

Data: タグやサブタグで識別される、機能や設定値です。

Suffix:「;<ETX>」(HEX: 3B 03)、2 文字。

複数のコマンドを 1 つの Prefix または Suffix シーケンス内に発行することができます。設定コマンドの場合は、Tag、SubTag、Data の各フィールドのみ、各コマンドを順番に繰り返す必要があります。同一の Tag に追加コマンドを適用する場合には、コマンドをコンマ「,」で区切り、追加コマンドの SubTag と Data フィールドのみを発行します。追加コマンドが異なる Tag フィールドを必要とする場合、そのコマンドは前のコマンドとセミコロン「;」で区切られます。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

クエリコマンド

クエリコマンドの場合、上の構文の Data フィールドのエントリは、以下のいずれかの文字のを意味します。

＊(HEX: 2A) 設定に対する現在のバーコードリーダーの値は？

& (HEX: 26) その設定の工場出荷時の値は？

^ (HEX: 5E) その設定の利用可能な値の範囲は？

クエリコマンドの StoreType フィールドの値は、「@」(HEX:40)または「#」(HEX:23)です。

SubTag フィールドを省略したクエリコマンドは、タグに関する全ての設定を問い合わせることを意味します。例えば、コード 11 に関する現在のすべての設定を照会する場合、「7E 01 30 30 40 43 31 31 2A 3B 03」(例：~<SOH>0000@C11*;<ETX>)と入力します。>).

レスポンス

レスポンスの prefix は、コマンドシーケンスとは異なり、「<STX><SOH>0000」(HEX：02 01 30 30 30)の 6 文字で構成されています。

バーコードリーダーは、以下の 3 つのレスポンスのいずれかでシリアルコマンドに応答します。

<ACK> (HEX: 06) コマンド処理が良好であることを示しています。

<NAK> (HEX: 15) この Tag と SubTag の組み合わせに対して、Data フィールドの入力値が許容範囲外である場合（例えば、フィールドが 2 桁しか入力できない場合に、文字間の遅延を 100 と入力した場合）、または無効なクエリコマンドを示しています。

<ENQ> (HEX: 05) 無効な Tag コマンドまたは SubTag コマンドを示しています。

応答時、バーコードリーダーはコマンドの各句読点（カンマまたはセミコロン）の直前に上記のステータス文字を挿入したコマンドシーケンスをエコーバックします。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

例

例 1:コード 11 を有効し、最小桁と最大桁をそれぞれ 12 と 22 に設定。

入力値: 7E 01 30 30 30 30 40 43 31 31 45 4E 41 31 2C 4D 49 4E 31 32 2C 4D 41 58 32 32 3B 03
(~<SOH>0000@C11ENA1,MIN12,MAX22;<ETX>)

レスポンス: 02 01 30 30 30 30 40 43 31 31 45 4E 41 31 06 2C 4D 49 4E 31 32 06 2C 4D 41 58 32 32 06 3B 03
(<STX><SOH>0000@C11ENA1<ACK>,MIN12<ACK>,MAX22<ACK>;<ETX>)

例 2: コード 11 の現在の最小桁と最大桁を問い合わせる。

入力値: 7E 01 30 30 30 30 40 43 31 31 4D 49 4E 2A 2C 4D 41 58 2A 3B 03
(~<SOH>0000@C11MIN*,MAX*;<ETX>)

レスポンス: 02 01 30 30 30 30 40 43 31 31 4D 49 4E 31 32 06 2C 4D 41 58 32 32 06 3B 03
(<STX><SOH>0000@C11MIN12<ACK>,MAX22<ACK>;<ETX>)

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

設定バーコードの利用

Enter Setup バーコード（セットアップに入るバーコード）をスキャンすると、バーコードリーダーがセットアップモードになります。その後、設定バーコードをいくつかスキャンして、バーコードリーダーを設定することができます。セットアップモードを終了するには、**Exit Setup バーコード**（セットアップをやめるバーコード）またはノンプログラミングバーコードをスキャンするか、バーコードリーダーを再起動してください。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

設定バーコードのデータ（設定バーコードの下の文字）を接続端末に送信できます。以下の適切なバーコードをスキャンすることで、接続端末への設定バーコードデータの送信を有効または無効にすることができます。

@SETUPT0

** 設定バーコードデータを送信しない

@SETUPT1

設定バーコードデータを送信

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

照明

数種類の照明設定が用意されています。読み取りする際の照明条件を設定することができます。

通常: バーコードの読み取り時に照明 LED が点灯します。

常時点灯: バーコードリーダーの電源を入れた後も、照明 LED が点灯します。

無効: 常に照明 LED が無効です。

@ILLSCN1
**** 通常**

@ILLSCN0
無効

@ILLSCN2
常時点灯

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

正常読み取り LED

緑色の LED を、有効または無効に設定して、正常読み取りであることを表示します。

@GRLENA1
**** 有効**

@GRLENA0
無効

正常読み取り LED の持続時間

この設定は、正常読み取りが行われた後の LED 点灯時間を設定します。1ms から 10,000ms まで、1ms 単位で設定可能です。

@GRLDUR20
短い (20ms)

@GRLDUR120
中 (120ms)

@GRLDUR220
長 (220ms)

@GRLDUR500
**** 延長 (500ms)**

@GRLDUR
カスタマイズ(1 – 10,000ms)

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

Example

正常読み取り LED の持続時間を 800ms に設定する方法

1. **Enter Setup バーコード**をスキャンします。
2. **Custom バーコード**をスキャンします。
3. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「8」、「0」、「0」**をスキャンします。
4. 付録 の**「保存/キャンセル　バーコード」** セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **Exit Setup バーコード**をスキャンします。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

電源ブザー

本バーコードリーダーは電源を入れるとブザーが鳴るようにプログラムされています。電源オン時のブザーが不要な方は **Off バーコード**をスキャンしてください。

@PWBENA1
**** 有効**

@PWBENA0
無効

正常読み取りブザー

正常読み取りをした際に、本バーコードリーダーからブザーを鳴らす設定です。
設定が有効の場合、正常読み取りをしたらブザーが鳴り、設定が無効の場合、正常読み取りをしてもブザーが鳴りません。

@GRBENA1
**** 有効**

@GRBENA0
無効

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

正常読み取り ブザー音の長さ

この設定では、正常読み取りをした際のブザーの長さを設定します。20ms から 300ms まで、1ms 単位で設定可能です。

@GRBDUR40

短い(40ms)

@GRBDUR100

**** 中 (100ms)**

@GRBDUR120

長 (120ms)

@GRBDUR

カスタマイズ(20-300ms)

Example

正常読み取り ブザー持続時間を 200ms に設定する方法

1. **Enter Setup バーコード**をスキャンします。
2. 正常読み取り ブザー音の長さから**カスタマイズ(20-300ms)バーコード**をスキャンします
3. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「2」、「0」、「0」**をスキャンします。
4. 付録 の**「保存/キャンセル　バーコード」** セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **Exit Setup バーコード**をスキャンします。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

正常読み取り ブザーの音域

この設定は、20Hz から 20,000Hz まで 1Hz 単位で設定可能です。

@GRBFRQ800
極低(800Hz)

@GRBFRQ1600
低(1600Hz)

@GRBFRQ3940
**** 中 (3940Hz)**

@GRBFRQ4200
高(4200Hz)

@GRBFRQ
カスタマイズ(20-20000Hz)

Example

正常読み取り ブザーの音域 を 2000ms に設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **正常読み取り ブザーの音域から カスタマイズ(20-20000Hz)バーコード**をスキャンします。
3. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「2」、「0」、「0」、「0」**をスキャンします。
4. 付録 の**「保存/キャンセル バーコード」** セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

正常読み取り ブザー音量

音量は 20 段階で調節できます。値が大きくなるほど、正常読み取りブザーの音量が大きくなります。

@GRBVLL20

高

@GRBVLL12

中

@GRBVLL5

**** 低**

@GRBVLL

カスタマイズ(1-20)

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

スキャンモード

レベルモード:トリガーを引くと、読み取りが開始されます。バーコードが読み取りされるか、トリガーを離すまで読み取りが続きます。

センスモード:周囲の明るさの変化を検知するたびに、手ぶれ補正を待って読み取りを開始します。読み取りは、バーコードが読み取りされるか、読み取りのタイムアウトが終了するまで続きます。 このモードでは、トリガーを引くと読み取りが開始されます。バーコードが読み取りされるか、トリガーが解除されるまで読み取りは続きます。 セッションが終了すると、バーコードリーダーが引き続き周辺の明るさをモニタリングします。 読み取り間隔のタイムアウト (同一バーコードの場合)は、指定時間内に同じバーコードを再読してしまうことを防ぐことができます。感度は、周囲の明るさの変化に対するセンスモードの感度を変えることができます。

連続モード: バーコードリーダーは次から次へと自動的に読み取りを開始します。トリガーを押すだけでバーコードの読み取りを中断または再開できます。
読み取り間隔のタイムアウト (同一バーコードの場合)は、一定時間内に同じバーコードを再読してしまうことを防止できます。

パルスモード:トリガーを引いてから離すと、バーコードが読み取りされるか、読み取りのタイムアウトが終了するまで、スキャンが有効になります (読み取りのタイムアウトは、トリガーが離されたときに開始されます)。

バッチモード:トリガーを引いてから離した時から、次にトリガーを引いてから離すまでスキャンが有効になります。トリガーを引くと、読み取ったバーコードはブザーが鳴り、バーコード情報を出力します。トリガーを放している間は、読み取りを続けます。トリガーを引いている間は、同じコードを一度だけ読むことができます。

@SETUPE0

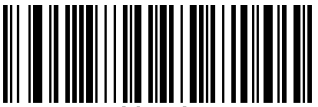
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

@SCNMOD0

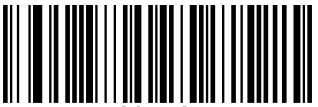
レベルモード


@SCNMOD2

**** センスモード**

@SCNMOD3

連続モード


@SCNMOD4

パルスモード

@SCNMOD7

バッチモード

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

読み取りのタイムアウト

この設定では、スキャン試行中に読み取りの最大継続時間を設定します。1ms から 3,600,000ms まで、1ms 単位で設定可能です。0 に設定すると、タイムアウトは無限大になります。設定は 3,000ms に初期設定されています。

@ORTSET
読み取りのタイムアウト

Example

読み取りのタイムアウトを 1,500ms に設定する方法

1. **Enter Setup バーコード**をスキャンします。
2. **読み取りのタイムアウトバーコード**をスキャンします
3. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「1」、「5」、「0」、「0」**をスキャンします。
4. 付録 の**「保存/キャンセル　バーコード」** セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **Exit Setup バーコード**をスキャンします。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

手ぶれ補正のタイムアウト（センスモード）

この設定は、バーコードを読み取りして別のバーコードを探した後、バーコードリーダーが周囲の環境に適応するまでの時間を定義します。0ms から 3,000ms まで、1ms 単位でプログラム可能です。初期設定は 100ms です。

@SENIST

手ぶれ補正のタイムアウト（センスモード）

Example

手ぶれ補正のタイムアウト（センスモード）を 1,500ms に設定する方法

1. **Enter Setup バーコード**をスキャンします。
2. **手ぶれ補正のタイムアウト（センスモード）バーコード**をスキャンします
3. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「1」、「5」、「0」、「0」**をスキャンします。
4. 付録 の**「保存/キャンセル　バーコード」** セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **Exit Setup バーコード**をスキャンします。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

読み取り間隔のタイムアウト（連続モード）

この設定は、読み取り間隔のタイムアウトを設定します。読み取りが終了すると、読み取り間隔のタイムアウトが終了するまで次の読み取りは行われません。0ms から 36,000ms まで、1ms 単位で設定できます。初期設定は 200ms です。

@SCNINV
読み取り間隔のタイムアウト

Example

読み取り間隔のタイムアウトを 1,500ms に設定する方法

1. **Enter Setup バーコード**をスキャンします。
2. **読み取り間隔のタイムアウトバーコード**をスキャンします
3. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「1」、「5」、「0」、「0」**をスキャンします。
4. 付録 の**「保存/キャンセル　バーコード」** セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **Exit Setup バーコード**をスキャンします。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

読み取り間隔のタイムアウト（同一バーコードの場合）

読み取り間隔のタイムアウト（同一バーコードの場合）は、一定時間内に同じバーコードを再読み取りすることを防止ができます。読み取り間隔のタイムアウト（同一バーコードの場合）は以下の該当するバーコードをスキャンして、有効・無効を切り替えることができます。

読み取り間隔のタイムアウト（同一バーコードの場合） 有効： 読み取りのタイムアウト（同じバーコード）が期限切れになる前に、スキャナーが同じバーコードを再読み取りできないようにします。

読み取り間隔のタイムアウト（同一バーコードの場合） 無効： スキャナーが同じバーコードを再読み取りできるようにします。

@RRDENA1

読み取り間隔のタイムアウト（同一バーコードの場合） 有効

@RRDENA0

**** 読み取り間隔のタイムアウト（同一バーコードの場合） 無効**

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

以下の設定は、同じバーコードの読み取り間隔のタイムアウトを設定します。1ms から 65,535ms まで、1ms 単位で設定できます。初期設定は 1,500ms です。

@RRDDUR

読み取り間隔のタイムアウト（同一バーコードの場合）

Example

読み取り間隔のタイムアウト（同一バーコードの場合）を 1,000ms に設定する方法

1. **Enter Setup バーコード**をスキャンします。
2. **読み取り間隔のタイムアウト(同一バーコードの場合)バーコード**をスキャンします。
3. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「1」、「0」、「0」、「0」**をスキャンします。
4. 付録 の**「保存/キャンセル　バーコード」** セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **Exit Setup バーコード**をスキャンします。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

GS1　アプリケーション識別子 (AI)の括弧を出力する

GS1 アプリケーション識別子 (AI) を括弧で囲むが設定されている場合、スキャンされたデータに含まれる各アプリケーション識別子 (AI) は、出力メッセージの括弧で囲まれます。

@GS1AIP0

**** GS1 AI の括弧を出力しない**

@GS1AIP1

GS1 AI の括弧を出力する

Example

(01) 0 0614141 99999 6 (10) 10ABCEDF123456

GS1 AI の括弧を出力するを選択した場合、上記のバーコードは (01)00614141999996(10)10ABCEDF123456 として出力されます。

GS1 AI の括弧を出力しないを選択した場合、上記のバーコードは as010061414199999961010ABCEDF123456 として出力されます。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

センスモードの感度

感度とは、バーコードリーダーの反応の鋭さを示すものです。20 段階の設定が可能です。値が小さいほど感度が高くなり、バーコードリーダーを起動するための画像変更の必要性が低くなります。利用環境に合わせて、適切な感度を選択することができます。この機能はセンスモードのみ利用可能です。

@SENLVL14
低感度

@SENLVL2
****感度強化**

@SENLVL8
中感度

@SENLVL5
高感度

@SENLVL
カスタマイズ(Level 1-20)

Example

センスモードの感度をレベル 10 に設定する方法

1. **Enter Setup バーコード**をスキャンします。
2. **カスタマイズ(Level 1-20)バーコード**をスキャンします。
3. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「1」、「0」**をスキャンします。
4. 付録 の**「保存/キャンセル　バーコード」** セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **Exit Setup バーコード**をスキャンします。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

自動スリープ

自動スリープは、レベルモードまたはパルスモードのバーコードリーダーが一定時間（ユーザーがプログラム可能）操作や通信を行わなかった場合、自動的にスリープモードまたは低電力モードに入ることが可能になります。バーコードリーダーがスリープモード中、トリガーを押すか、接続端末からのコマンドを受信することで、バーコードリーダーのスリープモードが解除されます。バーコードリーダーは 200ms 以内に元の動作に戻ります。

@ATIDLE0

自動スリープ　無効

@ATIDLE1

****自動スリープ　有効**

以下の設定は、バーコードリーダーがスリープモードに入るまでの時間（操作や通信が行われていない間隔）を設定します。0ms から 65,535ms まで 1ms 単位でプログラム可能です。初期設定は 500ms です。

@ATIDUR

スリープモードに入るまでの時間

Example

スリープまでの時間を 1,000ms にする方法。

1. **Enter Setup バーコード**をスキャンします。
2. **スリープモードに入るまでの時間バーコード**をスキャンします。
3. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「1」、「0」**をスキャンします。
4. 付録 の**「保存/キャンセル　バーコード」** セクションの **Save バーコード**をスキャンします。
5. **Exit Setup バーコード**をスキャンします。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

スキャン設定

ノーマルモーションtレランスモード：紙のバーコードを読み取る場合、このモードを選択します。

ハイモーションtレランスモード：画面のバーコードを読み取る場合は、このモードを選択します。

バーコードペイモード：Alipay や WeChat Pay のバーコードなど、決済処理用のバーコードを読み取る場合、このモードを選択します。

@EXPLVL3
****ノーマルモーションtレランス**

@EXPLVL4
ハイモーションtレランス

@EXPLVL5
バーコードペイモード

@SETUPE0
** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

電源を入れた後バーコード読み取り

無効: 電源を入れた後、バーコードリーダーはバーコードを読み取ることができません。明るさと照準が無効になります。Read Barcode Command をバーコードリーダーに送信して有効にすることができます。

有効: 電源を入れた後、バーコードリーダーはバーコードを読み取ることができます。

この機能は、インターフェースが USB キーボードの場合は無効です。

@SCNPEN1

**** 有効**

@SCNPEN0

無効

バーコード読み取り 有効／無効

バーコード読み取り 無効コマンド~<SOH>0000#SCNENA0;<ETX>をバーコードリーダーに送信すると、バーコードの読み取りができなくなり、**バーコード読み取り 有効コマンド**~<SOH>0000#SCNENA1;<ETX>をバーコードリーダーに送信するか、電源のスイッチを入れ直さない限り、バーコードリーダーはバーコードを読み取ることができません。初期設定では、バーコード読み取りは 有効です。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

読み取りエラーメッセージ

以下の該当するバーコードをスキャンし、正しく読み取りが行われなかった場合、読み取りのタイムアウトが終了した場合、またはバーコードリーダーがスキャン停止コマンドを受信した場合に、読み取りエラーのメッセージ(ユーザーがプログラム可能)を送信するかを選択します。

@NGRENA0
****読み取りエラーメッセージ 無効**

@NGRENA1
読み取りエラーメッセージ 有効

読み取りエラーのメッセージ設定

読み取りエラーのメッセージには、最大 7 文字(0x00～0xFF の HEX 値)まで設定できます。読み取りエラーのメッセージを設定する際、読み取りエラーのメッセージバーコード、希望する文字の 16 進数を表す数字バーコード、および Save バーコードをスキャンします。

@NGRSET
読み取りエラーのメッセージ

Example

読み取りエラーのメッセージを 「F」(HEX: 0x46)に設定する方法

1. **Enter Setup バーコード**をスキャンします。
2. **読み取りエラーのメッセージバーコード**をスキャンします。
3. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「4」、「6」**をスキャンします。
4. 付録 の**「保存/キャンセル バーコード」** セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **Exit Setup バーコード**をスキャンします。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

初期設定

工場出荷時設定

以下のバーコードをスキャンすると、バーコードリーダーを工場出荷時の状態に戻すことができます。

以下に該当する場合、全ての設定を工場出荷時の設定に戻す必要がある可能性があります。

✧ バーコードリーダーが正しく設定されていないため、バーコードの読み取りに失敗する場合。

✧ 以前の設定を忘れてしまった場合。

@FACDEF

工場出荷時設定

カスタムデフォルト

全てカスタムデフォルトに戻すバーコードをスキャンすると、すべての設定をカスタムデフォルトにリセットできます。**カスタムデフォルトとして保存バーコード**をスキャンすると、現在の設定をカスタムデフォルトとして設定できます。

カスタムデフォルトは不揮発性メモリに保存されます。

@CUSSAV

カスタムデフォルトとして保存

@CUSDEF

全てカスタムデフォルトに戻す

バーコードリーダーを工場出荷状態に戻しても、カスタムデフォルトはバーコードリーダーから削除されません。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

製品情報の確認

下のバーコードを読み取ると、製品情報（製品名、ファームウェアバージョン、デコーダーバージョン、ハードウェアバージョン、製品シリアル番号、OEM シリアル番号、製造日など）が接続端末に送信されます。

@QRYSYS
製品情報の確認

製品名の確認

@QRYPDN
製品名の確認

ファームウェアバージョンの確認

@QRYFWV
ファームウェアバージョンの確認

デコーダーバージョンの確認

@QRYDCV
デコーダーバージョンの確認

データフォーマットバージョンの確認

@QRYDFM
データフォーマットバージョンの確認

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

ハードウェアバージョンの確認

@QRYHWV

ハードウェアバージョンの確認

製品シリアル番号の確認

@QRYPSN

製品シリアル番号の確認

製造日の確認

@QRYDAT

製造日の確認

OEM シリアル番号の確認

@QRYESN

OEM シリアル番号の確認

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

第 3 章　RS-232

概要

バーコードリーダーを接続端末の RS-232 ポートに接続する場合、2 台の機器が相互に通信できるように、バーコードリーダーの通信設定（ボーレート、パリティチェック、データビット、ストップビットを含む）を接続端末に合わせて設定する必要があります。

@INTERF0
RS-232

ボーレート

ボーレートとは、1 秒間に送信されるデータのビット数のことです。接続端末の要件に合わせたボーレートを設定してください。

@232BAD8
115200

@232BAD7
57600

@232BAD6
38400

@232BAD5
19200

@232BAD4
14400

@232BAD3
**** 9600**

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

@232BAD2

4800

@232BAD1

2400

パリティチェック

接続端末の要件に合わせてパリティタイプを設定します。

Odd Parity（奇数パリティ）: データに奇数個の 1 ビットが含まれる場合、パリティビットの値は 0 に設定されます。

Even Parity（偶数パリティ）: データに偶数個の 1 ビットが含まれる場合、パリティビットの値は 0 に設定されます。

None（なし）: パリティビットを必要としない場合に選択します。

@232PAR0

**** None**

@232PAR1

Even Parity

@232PAR2

Odd Parity

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

データビット

接続端末の要件に合わせてデータビット数を設定します。

@232DAT1

7 Data Bits

@232DAT0

**** 8 Data Bits**

ストップビット

送信された各文字の最後にあるストップビットは、1 つの文字の送信が完了したことを示し、受信デバイスがシリアルデータストリームの次の文字を受信する準備をします。ストップビットの数は、接続端末の要件に合わせて設定します。

@232STP0

**** 1 Stop Bit**

@232STP1

2 Stop Bits

@SETUPE0

** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

第 4 章　USB インターフェース

概要

USB インターフェース用の 4 種類のオプションがあります 。

- ✧ **USB HID キーボード:** バーコードリーダーからの送信は、USB キーボード入力としてシミュレートされ、コマンド設定やドライバーは必要ありません。バーコードデータは仮想キーボードで直接入力でき、接続端末によるデータ受信にも便利です。
- ✧ **USB CDC:** USB-IF が定める標準的な USB CDC クラスの仕様に準拠しており、シリアルポートと同じように接続端末がデータを受信することができます。この機能を使用する場合、ドライバーが必要です。
- ✧ **HID POS (POS HID バーコードバーコードリーダー):** HID インターフェースベースのため、カスタムドライバーは必要ありません。バーチャルキーボードや従来の RS-232 インターフェースよりも伝送速度に優れています。
- ✧ **IBM SurePOS:** IBM（現東芝グローバルコマースソリューションズ）4698 USB バーコードリーダーインターフェース規格に準拠しています。

USB HID キーボード

バーコードリーダーが接続端末の USB ポートに接続されている場合、以下のバーコードをスキャンして、USB HID キーボード機能を利用することができます。バーコードリーダーから送信された情報を USB キーボードの入力としてシミュレートされます。接続端末は、仮想キーボード上のキーストロークを受信します。プラグ＆プレイで動作し、ドライバーは必要ありません。

@INTERF3

**** USB HID キーボード**

接続端末でキーボード入力が可能な場合、HID キーボード入力用に他のソフトウェアは必要ありません。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

USB 国別キーボードタイプ

キーボード配置は国によって異なります。初期設定では日本のキーボードに設定されています。

@KBWCTY0
アメリカ（英語）

@KBWCTY1
ベルギー

@KBWCTY2
ブラジル

@KBWCTY3
カナダ（フランス語）

@KBWCTY4
チェコ

@KBWCTY5
デンマーク

@KBWCTY6
フィンランド（スゥエーデン語）

@KBWCTY7
フランス

@KBWCTY8
ドイツ・オーストラリア

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

@KBWCTY9

ギリシャ

@KBWCTY10

ハンガリー

@KBWCTY11

イスラエル（ヘブライ語）

@KBWCTY12

イタリア

@KBWCTY13

中南米

@KBWCTY14

オランダ

@KBWCTY15

ノルウェー

@KBWCTY16

ポーランド

@KBWCTY17

ポルトガル

@KBWCTY18

ルーマニア

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

@KBWCTY19

ロシア

@KBWCTY21

スロバキア

@KBWCTY22

スペイン

@KBWCTY23

スゥエーデン

@KBWCTY24

スイス（ドイツ語）

@KBWCTY25

トルコ　F タイプ

@KBWCTY26

トルコ　Q タイプ

@KBWCTY27

イギリス

@KBWCTY28

****日本**

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

ブザーによる不明な文字の警告

キーボードのレイアウトの違いにより、バーコードデータの文字が、選択したキーボードで使用できない場合があります。その場合、バーコードリーダーは不明な文字を送信できません。

以下バーコードを読み取ると、不明な文字を検出した際にブザーの有効化または無効化することができます。

@KBWBUC0
****不明な文字を警告しない**

@KBWBUC1
不明な文字を警告する

Example

フランスのキーボード（国コード：7）が選択され、バーコードデータ「AÐF」が処理されているとすると、キーボードは「Ð」（0xD0）の文字を見つけることができず、バーコードリーダーはその文字を無視して次の文字を処理します。

不明な文字を警告しない: バーコードリーダーはブザーを鳴らさず、接続端末は「AF」を受信します。

不明な文字を警告する: バーコードリーダーがブザーを鳴らし、接続端末は「AF」を受信します。

Emulate ALT+キーボード ON を選択している場合、不明な文字を警告するは機能しません。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

EmulateALT+キーボード

Emulate ALT+キーボードが有効になっていると、どのキーボードタイプを選択しても、ASCII 値が 0x20 以上の文字がテンキーで送信されます。

1. ALT Make
2. E キーパッドで、任意の文字に対応する数字を入力します。
3. ALT Break

Emulate ALT+キーボード 有効を選択後、バーコードを作成した Code Page を選択し、アプリケーションソフトが使用するエンコーディングに応じて Unicode エンコーディング 有効または無効を選択する必要があります。

@KBWALT0
****Emulate ALT+キーボード 無効**

@KBWALT1
Emulate ALT+キーボード 有効

文字の送信にはキーボードエミュレーションが必要となるため、この方法は効率が悪い可能性があります。

Emulate ALT+キーボード が 有効、Unicode エンコーディング が 無効、Code Page 1252（西ヨーロッパ言語）が選択され、先頭 0 付きキーボードエミュレーション が 無効 の場合、バーコードデータ「AÐF」(65/208/70)は以下のように送信されます。

「A」-「ALT Make」+「065」+「ALT Break」

「Ð」--「ALT Make」+「208」+「ALT Break」

「F」--「ALT Make」+「070」+「ALT Break」

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

コードページ

Code Page とは、文字コードと文字を定義したものです。受信したデータが適切な文字で表示されない場合、スキャンしたバーコードがプログラムが想定している Code Page とは異なる Code Page で作成されていることが考えられます。このような場合は、以下の適切なバーコードをスキャンして、バーコードが作成された Code Page を選択してください。PDF417、QR コード、Aztec コード、Data Matrix の場合は、Code Page の設定のほかに、「第 5 章 シンボル」の各バーコード設定からキャラクタエンコーディングをを設定する必要があります。この機能は、Emulate ALT+キーボード が有効になっている場合のみ使用できます。

@KBWCPG0

**** Code Page 1252 (西ヨーロッパ言語)**

@KBWCPG1

Code Page 1251 (キリル語)

@KBWCPG2

Code Page 1250 (中央ヨーロッパ言語)

@KBWCPG3

Code Page 1253 (ギリシャ語)

@KBWCPG4

Code Page 1254 (トルコ語)

@KBWCPG5

Code Page 1255 (ヘブライ語)

@KBWCPG6

Code Page 1256 (アラビア語)

@KBWCPG7

Code Page 1257 (バルト語)

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

@KBWCPG8

Code Page 1258 (ベトナム語)

@KBWCPG9

Code Page 936
(簡体字中国語 GB2312、GBK)

@KBWCPG10

Code Page 950 (繁体字中国語、Big5)

@KBWCPG12

Code Page 932 (日本語、JIS)

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

Unicode エンコーディング

プログラムによっては、受信したバーコードデータの処理のため、異なる文字エンコーディングを使用する場合があります。例えば、Microsoft Office Word は Unicode エンコーディングを使用しているため、Unicode エンコーディングを有効にする必要がありますが、Microsoft Office Excel や Notepad は Code Page エンコーディングを使用しているため、Unicode エンコーディングを無効にする必要があります。この機能は、Emulate ALT+キーボードがオンになっている場合のみ有効です。

@KBWCPU0
**** 無効**

@KBWCPU1
有効

先頭 0 付きキーボードエミュレーション

この機能を有効にすると、テンキーから送られてくる文字列に、先頭 0 付き ISO 文字として送信することができます。例えば、ASCII A は「ALT MAKE」0065「ALT BREAK 」として送信されます。この機能は、Emulate ALT+キーボードが有効な場合のみ使用できます。

@KBWALZ1
**** 有効**

@KBWALZ0
無効

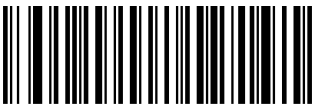
@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

ファンクションキーマッピング

Ctrl+ASCII モードを設定すると、制御文字（0x00～0x1F）が ASCII シーケンスとして送信されます。

@KBWFKM0
****無効**


@KBWFKM1
Ctrl+ASCII モード

@KBWFKM2
Alt+キーボード モード

Example

Ctrl+ASCII モードが設定され、USB HID キーボードの他の設定が工場出荷時の設定になっている場合、バーコードデータ「A<HT>(例：水平タブ)F」(0x41/0x09/0x46)が以下のように送信されます。

“A” – Keystroke “A”.

<HT> – “Ctrl Make” + Keystroke “I” + “Ctrl Break”

“F” – Keystroke “F”

一部のテキストエディターでは、「Ctrl I」はイタリック変換を意味します。そのため、出力は「AF」になることがあります。

Alt+キーボード モードが選択され、USB HID キーボードの他の設定が工場出荷時の設定になっている場合、上記のデータは以下のように送信されます。

“A” – Keystroke “A”.

<HT> – “Alt Make” + Keystrokes “009” + “Alt Break”

“F” – Keystroke “F”

@SETUPE0
** Exit Setup

@SETUPE1

Enter Setup

ASCII ファンクションキーマッピング表 1

ASCII 制御文字略号	ASCII コード(16進数)	ファンクションキーマッピング無効化	Ctrl+ASCII
NUL	00	Null	Ctrl+@
SOH	01	Keypad Enter	Ctrl+A
STX	02	Caps Lock	Ctrl+B
ETX	03	ALT	Ctrl+C
EOT	04	Null	Ctrl+D
ENQ	05	CTRL	Ctrl+E
ACK	06	Null	Ctrl+F
BEL	07	Enter	Ctrl+G
BS	08	左矢印	Ctrl+H
HT	09	水平タブ	Ctrl+I
LF	0A	下矢印	Ctrl+J
VT	0B	垂直タブ	Ctrl+K
FF	0C	Delete	Ctrl+L
CR	0D	Enter	Ctrl+M
SO	0E	Insert	Ctrl+N
SI	0F	Esc	Ctrl+O
DLE	10	F11	Ctrl+P
DC1	11	Home	Ctrl+Q
DC2	12	PrintScreen	Ctrl+R
DC3	13	Backspace	Ctrl+S
DC4	14	tab+shift	Ctrl+T
NAK	15	F12	Ctrl+U
SYN	16	F1	Ctrl+V
ETB	17	F2	Ctrl+W
CAN	18	F3	Ctrl+X
EM	19	F4	Ctrl+Y
SUB	1A	F5	Ctrl+Z
ESC	11	F6	Ctrl+[
FS	1C	F7	Ctrl+¥
GS	1D	F8	Ctrl+]
RS	1E	F9	Ctrl+6
US	1F	F10	Ctrl+−

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

ASCII ファンクションキーマッピング表２

上の表の最後の 5 文字（0x1B～0x1F）は、US キーボード配列にのみ適用されます。次の表は、他の国でこれらの 5 文字に相当するものを示しています。

国名	Ctrl+ASCII					
アメリカ	Ctrl+[	Ctrl+¥	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+−	
ベルギー	Ctrl+[	Ctrl+<	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+−	
スウェーデン	Ctrl+8	Ctrl+<	Ctrl+9	Ctrl+6	Ctrl+−	
フランス	Ctrl+^	Ctrl+8	Ctrl+$	Ctrl+6	Ctrl+=	
ドイツ		Ctrl+Ã	Ctrl++	Ctrl+6	Ctrl+−	
イタリア		Ctrl+¥	Ctrl++	Ctrl+6	Ctrl+−	
スイス		Ctrl+<	Ctrl+..	Ctrl+6	Ctrl+−	
イギリス	Ctrl+[	Ctrl+ ¢	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+−	
デンマーク	Ctrl+8	Ctrl+¥	Ctrl+9	Ctrl+6	Ctrl+−	
ノルウェー	Ctrl+8	Ctrl+¥	Ctrl+9	Ctrl+6	Ctrl+−	
スペイン	Ctrl+[	Ctrl+¥	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+−	

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

文字間のディレイ

この設定は、エミュレートされた文字間のディレイ(遅延)を指定します。

@KBWDLY0

0ms

@KBWDLY5

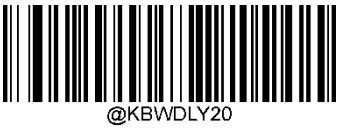
5ms

@KBWDLY10

****10ms**

@KBWDLY15

15ms


@KBWDLY20

20ms

@KBWDLY25

25ms

@KBWDLY30

30ms

@KBWDLY35

35ms

@KBWDLY40

40ms

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

@KBWDLY45

45ms

@KBWDLY50

50ms

@KBWDLY55

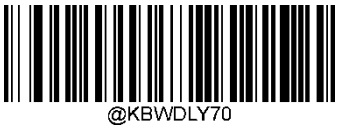
55ms

@KBWDLY60

60ms

@KBWDLY65

65ms


@KBWDLY70

70ms

@KBWDLY75

75ms

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

大文字・小文字の変換

以下のバーコードをスキャンすると、すべてのバーコードデータを大文字または小文字に変換できます。

@KBWCAS0
**** 変換なし**

@KBWCAS1
大文字へ変換

@KBWCAS2
小文字へ変換

Example

小文字に変換の機能が有効な場合、バーコードデータ「AbC」は「abc」として送信されます。

Emulate ALT+キーボード ON を選択した場合、小文字に変換および大文字へ変換は機能しません。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

テンキーのエミュレート

テンキー1 をエミュレート無効 ： 数字（0～9）の送信は、メインキーボードのキーとしてエミュレートされます。

テンキー1 をエミュレート有効 ： 数字（0～9）の送信を、テンキーとしてエミュレートします。模擬テンキーの Num Lock の状態は、接続端末の Num Lock の状態によって決まります。接続端末の Num Lock が無効になっている場合、模擬テンキーの出力は数字キーではなくファンクションキーになります。

テンキー2をエミュレート無効 ：「+」、「−」、「*」、「/」の送信は、メインキーボードのキーとしてエミュレートされます。

テンキー1 をエミュレート有効 ：「+」、「−」、「*」、「/」の送信は、テンキー上のキーとしてエミュレートされます。

@KBWNUM0
**** テンキー1 をエミュレート無効**

@KBWNUM1
テンキー1 をエミュレート有効

@KBWNCH0
**** テンキー2をエミュレート無効**

@KBWNCH1
テンキー2をエミュレート有効

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

Emulate ALT+キーボード　有効ではテンキーのエミュレート機能が優先されます。

テンキー1 をエミュレート有効の場合
接続端末の Num Lock が有効の場合、「A4.5 」は「A4.5 」として送信されます。
接続端末の Num Lock が無効の場合、「A4.5」は「.A」として送信されます。
1.メインキーボードの「A 」はそのまま送信されます。
2.「4」は「カーソル左（←） 」として送信されます。
3. メインキーボードの「・」はそのまま送信されます。
4.「5」は割当されていないので、送信されません。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

ポーリングレート

この設定は、USB キーボードのポーリングレートを指定します。接続端末で送信データが欠落する場合は、ポーリングレートをより大きな値に変更してください。

@KBWPOR0
**** 1ms**

@KBWPOR1
2ms

@KBWPOR2
3ms

@KBWPOR3
4ms

@KBWPOR4
5ms

@KBWPOR5
6ms

@KBWPOR6
7ms

@KBWPOR7
8ms

@KBWPOR8
9ms

@KBWPOR9
10ms

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

USB CDC（シリアル通信）

バーコードリーダーは、USB CDC 機能によりシリアルポートと同じデータ送信ができます。この機能を使用する場合、ドライバーが必要です。

公式サイト（https://www.busicom.co.jp/h/manual.html#barcode）からドライバーをダウンロードできます。

@INTERF8
USBCDC

HID POS (POS HID バーコードバーコードリーダー)

概要

新しいアプリケーションプログラムには、HID-POS インターフェースの利用をお勧めします。このインターフェースは、1 つの USB レポートで最大 56 文字を送信することができ、キーボードエミュレーションよりも効率的です。

特徴:

- ✧ HID ベース、カスタムドライバー不要。
- ✧ キーボードエミュレーションや従来の RS-232 インターフェースに比べ、より効率的な通信が可能。

@INTERF5
USB HID-POS

プログラムでバーコードリーダーへアクセス

CreateFile 関数を使用して HID デバイスとしてバーコードリーダーにアクセスし、ReadFile 関数を使用してスキャンされたデータをアプリケーションプログラムに配信します。WriteFile 関数を使用してデータをバーコードリーダーに送信します。

USB と HID インターフェースに関する詳細情報は こちら（www.USB.org）をご覧ください。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

A スキャンデータの習得

バコードが読み取られると、バーコードリーダーは以下のように入力レポートを送信します。

	ビット							
バイト	7	6	5	4	3	2	1	0
0	レポート ID = 0x02							
1	バーコード長さ							
2-57	読み取ったデータ(1-56)							
58-61	予備							
62	Symbology Identifier または N/C: 0x00							
63	–	–	–	–	–	–	–	読み取られたデータの続き

コマンドをバーコードリーダーへ送信

この出力レポートは、バーコードリーダーへのコマンド送信用です。すべてのプログラミングコマンドが使用できます。

	ビット							
バイト	7	6	5	4	3	2	1	0
0	レポート ID = 0x04							
1	コマンド長さ							
2-63	コマンド (1-62)							

IBM SurePOS (テーブルトップ)

@INTERF6

IBM SurePOS (Tabletop)

IBM SurePOS (ハンドヘルド)

@INTERF7

IBM SurePOS (Handheld)

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

VID/PID

USB では、VID（Vendor ID）と PID（Product ID）を用いてデバイスの識別、位置特定を行います。VID は、USB Implementers Forum によって割り当てられます。本製品のベンダーID は 1EAB（Hex）です。各製品には、さまざまな PID が使用されています。すべての PID には、ベースナンバーとインターフェースタイプ（キーボード、COM ポートなど）が含まれています。

製品	インターフェース	PID (Hex)	PID (Dec)
BC-NL3000UⅡ	USB HID キーボード	1A03	6659
	USB CDC	1A06	6662
	HID POS	1A10	6672
	IBM SurePOS (テーブルトップ)	1A20	6688
	IBM SurePOS (ハンドヘルド)	1A21	6689

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

第 5 章　シンボル

概要

すべてのシンボル（バーコードタイプ）には、独自の属性があります。本章では、バーコードリーダーがさまざまなシンボルを識別できるように設定するための設定バーコードについて説明します。バーコードリーダーの処理速度を上げるために、使用されない機能は無効にすることをお勧めします。

グローバル設定

すべてのシンボルを有効 / 無効

すべてのシンボルを無効にすると、バーコードリーダーは設定バーコード以外のバーコードを読み取ることができなくなります。

@ALLENA1
すべてのシンボルを有効

@ALLENA0
すべてのシンボルを無効

1D シンボルを有効 / 無効

@ALL1DC1
1D シンボルを有効

@ALL1DC0
1D シンボルを無効

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

2D シンボルを有効 / 無効

@ALL2DC1

2D シンボルを有効

@ALL2DC0

2D シンボルを無効

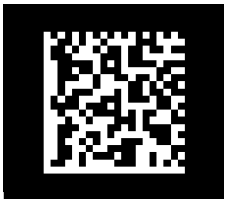
ビデオリバース（映像反転）

通常バーコード:明るい背景に暗い印字

反転バーコード:暗い背景に明るい印字

以下に、**通常バーコード**と**反転バーコード**の例を示します。

通常バーコード



反転バーコード

ビデオリバースでは、バーコードリーダーが反転バーコードを読み取ることができるようになります。

ビデオリバース 有効：通常バーコードと反転バーコードの両方を読み取ります。

ビデオリバース 無効：通常バーコードのみ読み取ります。

ビデオリバースがオンの場合、バーコードリーダーの読み取り速度が若干低下します。

@ALLINV0

**** ビデオリバース 無効**

@ALLINV1

ビデオリバース 有効

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

Code 128

工場出荷時の状態に戻す

@128DEF
Code 128 を工場出荷状態に戻す

Code 128 を有効 / 無効

@128ENA1
**** Code 128 有効**

@128ENA0
Code 128 無効

バーコードリーダーが Code 128 バーコードを識別できない場合は、
まず **Enter Setup バーコード**をスキャンし、次に **Code 128 有効バーコード**をスキャンしてみて下さい。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

Code 128 の桁数範囲指定

Code 128 では読み取れる桁数の範囲指定をして、指定桁数の Code 128 バーコードのみ読み取りすることができます。この機能を実行するには、最大桁と最小桁の設定する必要があります。

@128MIN

最小桁の設定（初期設定：1）

@128MAX

最大桁の設定（初期設定：127）

最小桁が最大桁よりも大きい場合、バーコードリーダーは最小桁または最大桁のいずれかを持つ Code 128 バーコードのみ読み取ります。最小桁が最大桁と同じ場合、その長さの Code 128 バーコードのみ読み取ります。

バーコードリーダーが 8～12 文字の Code 128 バーコードを読み取る設定方法

1. **Enter Setup バーコード**をスキャンします。
2. **最小桁の設定（初期設定：1)バーコード**をスキャンします。
3. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録 の**「保存/キャンセル バーコード」** セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁の設定（初期設定：127)バーコード**をスキャンします。
6. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の**「保存/キャンセル バーコード」** セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup バーコード**をスキャンします。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

チェックキャラクタの送信

**** Code128　チェックキャラクタを送信しない**

**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

JAN-8

工場出荷状態に戻す

@EA8DEF

JAN-8 を工場出荷状態に戻す

JAN-8 を有効 / 無効

@EA8ENA1

**** JAN-8 有効**

@EA8ENA0

JAN-8 無効

バーコードリーダーが JAN-8 バーコードを識別できない場合は、
まず **Enter Setup バーコード**をスキャンし、次に **JAN-8 有効バーコード**をスキャンしてみて下さい。

チェックキャラクタの送信

JAN-8 は長さが 8 桁であり、末尾の 1 桁はデータの整合性を確認するためのチェックキャラクタです。

@EA8CHK2

**** JAN-8 チェックキャラクタを送信する**

@EA8CHK1

JAN-8 チェックキャラクタを送信しない

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

2 桁のアドオンコード

JAN-8 バーコードは 2 桁のアドオンコードで拡張ができます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が JAN-8 バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が 2 桁のアドオンコードです。

@EA8AD20

**** 2 桁のアドオンコード　無効**

@EA8AD21

2 桁のアドオンコード　有効

2 桁のアドオンコード　無効： JAN-8 に 2 桁のアドオンコードが付属している場合、アドオンコードを無視します。2 桁のアドオンコードがない JAN-8 コードも読み取ることができます。

2 桁のアドオンコード　有効： 2 桁のアドオンコードがある JAN-8 バーコードとない JAN-8 バーコードのどちらも読み取ります。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

5 桁のアドオンコード

JAN-8 バーコードは 5 桁のアドオンコードで拡張ができます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が JAN-8 バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が 5 桁のアドオンコードです。

@EA8AD50

**** 5 桁のアドオンコード　無効**

@EA8AD51

5 桁のアドオンコード　有効

5 桁のアドオンコード　無効： JAN-8 に 5 桁のアドオンコードが付属している場合、アドオンコードを無視します。5 桁のアドオンコードがない JAN-8 コードも読み取ることができます。

5 桁のアドオンコード　有効 5 桁のアドオンコードがある JAN-8 バーコードとない JAN-8 バーコードのどちらも読み取ります。

アドオンコード必須

JAN-8 のアドオンコード必須の設定をすると、アドオンコード付きの JAN-8 バーコードのみ読み取ります。

@EA8REQ0

**** JAN-8 のアドオンコード必須としない**

@EA8REQ1

JAN-8 のアドオンコード必須

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

JAN-13

工場出荷状態に戻す

@E13DEF
JAN-13 を工場出荷状態に戻す

JAN-13 を有効 / 無効

@E13ENA1
**** JAN-13 有効**

@E13ENA0
JAN-13 無効

バーコードリーダーが JAN-13 バーコードを識別できない場合は、
まず **Enter Setup バーコード**をスキャンし、次に **Enable JAN-13 バーコード**をスキャンしてみて下さい。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

チェックキャラクタの送信

@E13CHK2

**** JAN-13 チェックキャラクタを送信する**

@E13CHK1

JAN-13 チェックキャラクタを送信しない

2 桁のアドオンコード

JAN-13 バーコードは 2 桁のアドオンコードで拡張ができます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が JAN-13 バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が 2 桁のアドオンコードです。

@E13AD20

**** 2 桁のアドオンコード　無効**

@E13AD21

2 桁のアドオンコード　有効

2 桁のアドオンコード　無効 ： JAN-13 に 2 桁のアドオンコードが付属している場合、アドオンコードを無視します。2 桁のアドオンコードがない JAN-13 コードも読み取ることができます。

2 桁のアドオンコード　有効 ： 2 桁のアドオンコードがある JAN-13 バーコードとない JAN-13 バーコードのどちらも読み取ります。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

5 桁のアドオンコード

JAN-13 バーコードは桁のアドオンコードで拡張ができます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が JAN-13 バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が 5 桁のアドオンコードです。

.

@E13AD50
**** 5 桁のアドオンコード　無効**

@E13AD51
5 桁のアドオンコード　有効

5 桁のアドオンコード　無効 ： JAN-13 に 5 桁のアドオンコードが付属している場合、アドオンコードを無視します。5 桁のアドオンコードがない JAN-13 コードも読み取ることができます。
5 桁のアドオンコード　有効 ： 5 桁のアドオンコードがある JAN-13 バーコードとない JAN-13 バーコードのどちらも読み取ります。

アドオンコード必須

JAN-13 **のアドオンコード必須**の設定をすると、バーコードリーダーはアドオンコード付きの JAN-13 バーコードのみ読み取ります。

@E13REQ0
**** JAN-13 のアドオンコード必須としない**

@E13REQ1
JAN-13 のアドオンコード必須

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

290 で始まる JAN-13 バーコードのアドオンコード必須

この設定は、「290」で始まる JAN-13 バーコードにアドオンコード（2 桁または 5 桁）を必要とするか設定できます。

アドオンコード必須：JAN-13 バーコードが全て「290」で始まる場合、2 桁または 5 桁のアドオンコードを必要とする設定です。アドオンコード付きの JAN-13 バーコードは送信されます。アドオンコードが見つからない場合、JAN-13 バーコードは送信されません。

アドオンコード必須としない：アドオンコード必須を設定後、この機能を無効にしたい場合、アドオンコード必須としないバーコードをスキャンします。

@E132900

****アドオンコード必須としない**

@E132901

アドオンコード必須

378 または 379 で始まる AN-13 バーコードのアドオンコード必須

この設定は、「378」または「379」で始まる JAN-13 バーコードにアドオンコード（2 桁または 5 桁）を必要とするか設定できます。

アドオンコード必須 ：JAN-13 バーコードが全て「378」または「379」で始まる場合、2 桁または 5 桁のアドオンコードを必要とする設定です。アドオンコード付きの JAN-13 バーコードは送信されます。アドオンコードが見つからない場合、JAN-13 バーコードは送信されません。

アドオンコード必須としない ：アドオンコード必須を設定後、この機能を無効にしたい場合、アドオンコード必須としないバーコードをスキャンします。

@E133780

**** アドオンコード必須としない**

@E133781

アドオンコード必須

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

414 または 419 で始まる AN-13 バーコードのアドオンコード必須

この設定は、「414」または「419」で始まる JAN-13 バーコードにアドオンコード（2 桁または 5 桁）を必要とするか設定できます。

アドオンコード必須： JAN-13 バーコードが全て「414」または「419」で始まる場合、2 桁または 5 桁のアドオンコードを必要とする設定です。アドオンコード付きの JAN-13 バーコードは送信されます。アドオンコードが見つからない場合、JAN-13 バーコードは送信されません。

アドオンコード必須としない： アドオンコード必須を設定後、この機能を無効にしたい場合、アドオンコード必須としないバーコードをスキャンします。

@E134140
**** アドオンコード必須としない**

@E134141
アドオンコード必須

434 または 439 で始まる AN-13 バーコードのアドオンコード必須

この設定は、「434」または「439」で始まる JAN-13 バーコードにアドオンコード（2 桁または 5 桁）を必要とするか設定できます。

アドオンコード必須： JAN-13 バーコードが全て「434」または「439」で始まる場合、2 桁または 5 桁のアドオンコードを必要とする設定です。アドオンコード付きの JAN-13 バーコードは送信されます。アドオンコードが見つからない場合、JAN-13 バーコードは送信されません。

アドオンコード必須としない： アドオンコード必須を設定後、この機能を無効にしたい場合、アドオンコード必須としないバーコードをスキャンします。

@E134340
**** アドオンコード必須としない**

@E134341
アドオンコード必須

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

977 で始まる AN-13 バーコードのアドオンコード必須

この設定は、「977」で始まる JAN-13 バーコードにアドオンコード（2 桁または 5 桁）を必要とするか設定できます。

アドオンコード必須： JAN-13 バーコードが全て「977」で始まる場合、2 桁または 5 桁のアドオンコードを必要とする設定です。アドオンコード付きの JAN-13 バーコードは送信されます。アドオンコードが見つからない場合、JAN-13 バーコードは送信されません。

アドオンコード必須としない： アドオンコード必須を設定後、この機能を無効にしたい場合、アドオンコード必須としないバーコードをスキャンします。

@E139770

**** アドオンコード必須としない**

@E139771

アドオンコード必須

978 で始まる AN-13 バーコードのアドオンコード必須

この設定は、「978」で始まる JAN-13 バーコードにアドオンコード（2 桁または 5 桁）を必要とするか設定できます。

アドオンコード必須： JAN-13 バーコードが全て「978」で始まる場合、2 桁または 5 桁のアドオンコードを必要とする設定です。アドオンコード付きの JAN-13 バーコードは送信されます。アドオンコードが見つからない場合、JAN-13 バーコードは送信されません。

アドオンコード必須としない： アドオンコード必須を設定後、この機能を無効にしたい場合、アドオンコード必須としないバーコードをスキャンします。

@E139780

**** アドオンコード必須としない**

@E139781

アドオンコード必須

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

979 で始まる AN-13 バーコードのアドオンコード必須

この設定は、「979」で始まる JAN-13 バーコードにアドオンコード（2 桁または 5 桁）を必要とするか設定できます。

アドオンコード必須： JAN-13 バーコードが全て「979」で始まる場合、2 桁または 5 桁のアドオンコードを必要とする設定です。アドオンコード付きの JAN-13 バーコードは送信されます。アドオンコードが見つからない場合、JAN-13 バーコードは送信されません。

アドオンコード必須としない： アドオンコード必須を設定後、この機能を無効にしたい場合、アドオンコード必須としないバーコードをスキャンします。

@E139790
**** アドオンコード必須としない**

@E139791
アドオンコード必須

@SETUPE0
** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

UPC-E

工場出荷状態に戻す

@UPEDEF
UPC-E を工場出荷状態に戻す

UPC-E を有効 / 無効

@UPEEN01
**** UPC-E0 有効**

@UPEEN00
UPC-E0 無効

@UPEEN11
**** UPC-E1 有効**

@UPEEN10
UPC-E1 無効

バーコードリーダーが UPC-E0/UPC-E1 バーコードを識別できない場合は、
まず **Enter Setup バーコード**をスキャンし、次に **Enable UPC-E0/UPC-E1 バーコード**をスキャンしてみて下さい。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

チェックキャラクタの送信

UPC-E は長さが 8 桁であり、末尾の 1 桁はデータの整合性を確認するためのチェックキャラクタです。

@UPECHK2
**** UPC-E チェックキャラクタを送信　有効**

@UPECHK1
UPC-E チェックキャラクタを送信　無効

2 桁のアドオンコード

UPC-E バーコードは 2 桁のアドオンコードで拡張ができます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が UPC-E バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が、2 桁のアドオンコードです。

@UPEAD20
**** 2 桁のアドオンコード　無効**

@UPEAD21
2 桁のアドオンコード　有効

2 桁のアドオンコード　無効：UPC-E に、2 桁のアドオンコードが付属している場合、アドオンコードを無視します。2 桁のアドオンコードがない UPC-E コードも読み取ることができます。
2 桁のアドオンコード　有効：2 桁のアドオンコードがある UPC-E バーコードとない UPC-E バーコードのどちらも読み取ります。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

5 桁のアドオンコード

UPC-E バーコードは 5 桁のアドオンコードで拡張ができます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が UPC-E バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が 5 桁のアドオンコードです。

@UPEAD50

**** 5 桁のアドオンコード　無効**

@UPEAD51

5 桁のアドオンコード　有効

5 桁のアドオンコード　無効（5 桁のアドオンコードを無効）: UPC-E に 5 桁のアドオンコードが付属している場合、アドオンコードを無視します。5 桁のアドオンコードがない UPC-E コードも読み取ることができます。

5 桁のアドオンコード　有効（5 桁のアドオンコード　有効）: 5 桁のアドオンコードがある UPC-E バーコードとない UPC-E バーコードのどちらも読み取ります。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

アドオンコード必須

UPC-E のアドオンコード必須が設定されている場合、バーコードリーダーはアドオン付き UPC-E バーコードのみ読み取ります。

@UPEREQ0

**** UPC-E のアドオンコード必須としない**

@UPEREQ1

UPC-E のアドオンコード必須

プリアンブルキャラクターの送信

プリアンブルキャラクター（国コードとシステムキャラクター）は、UPC-E バーコードの一部として送信できます。UPC-E プリアンブルを接続端末に送信する際、システムキャラクターのみ、システムキャラクターと国コード（※アメリカは「0」）、プリアンブルなしのいずれかの送信方法を選択します。

@UPEPRE1

**** システムキャラクター**

@UPEPRE0

プリアンブルなし

@UPEPRE2

システムキャラクター と国コード

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

UPC-A

工場出荷状態に戻す

@UPADEF

UPC-A を工場出荷状態に戻す

UPC-A を有効 / 無効

@UPAENA1

**** UPC-A 有効**

@UPAENA0

UPC-A 無効

バーコードリーダーが UPC-A バーコードを識別できない場合は、
まず **Enter Setup バーコード**をスキャンし、次に **Enable UPC-A バーコード**をスキャンしてみて下さい。

チェックキャラクタの送信

UPC-A は長さが 13 桁であり、末尾の 1 桁はデータの整合性を確認するためのチェックキャラクタです。

@UPACHK2

**** UPC-A のチェックキャラクタを送信する**

@UPACHK1

UPC-A のチェックキャラクタを送信しない

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

2 桁のアドオンコード

UPC-A バーコードは 2 桁のアドオンコードで拡張ができます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が UPC-A バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が、2 桁のアドオンコードです。

@UPAAD20
**** 2 桁のアドオンコード　無効**

@UPAAD21
2 桁のアドオンコード　有効

2 桁のアドオンコード　無効：UPC-A に、2 桁のアドオンコードが付属している場合、アドオンコードを無視します。2 桁のアドオンコードがない UPC-A コードも読み取ることができます。
2 桁のアドオンコード　有効：2 桁のアドオンコードがある UPC-A バーコードとない UPC-A バーコードのどちらも読み取ります。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

5 桁のアドオンコード

UPC-A バーコードは 5 桁のアドオンコードで拡張ができます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が UPC-A バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が 5 桁のアドオンコードです。

@UPAAD50

**** 5 桁のアドオンコード　無効**

@UPAAD51

5 桁のアドオンコード　有効

5 桁のアドオンコード　無効 ： UPC-A に 5 桁のアドオンコードが付属している場合、アドオンコードを無視します。5 桁のアドオンコードがない JAN-13 コードも読み取ることができます。

5 桁のアドオンコード　有効 ： 5 桁のアドオンコードがある UPC-A バーコードとないUPC-A バーコードのどちらも読み取ります。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

アドオンコード必須

UPC-A のアドオンコード必須が設定されている場合、バーコードリーダーはアドオン付き UPC-A バーコードのみ読み取ります。

@UPAREQ0
**** UPC-A のアドオンコード必須**

@UPAREQ1
UPC-A のアドオンコード必須としない

プリアンブルキャラクターの送信

プリアンブルキャラクター（国コードとシステム文字）は、UPC-A バーコードの一部として送信できます。UPC-A プリアンブルを接続端末に送信する際、システムキャラクターのみ、システムキャラクターと国コード（※アメリカは「0」）、プリアンブルなしのいずれかの送信方法を選択します。

@UPAPRE0
プリアンブルなし

@UPAPRE1
****システムキャラクター**

@UPAPRE2
システムキャラクター と国コード

@SETUPE0
** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

Interleaved 2 of 5（ITF）

工場出荷状態に戻す

@I25DEF

Interleaved 2 of 5(ITF)を工場出荷状態に戻す

Interleaved 2 of 5 を有効 / 無効

@I25ENA1

**** Interleaved 2 of 5(ITF) 有効**

@I25ENA0

Interleaved 2 of 5(ITF) 無効

バーコードリーダーが Interleaved 2 of 5(ITF)バーコードを識別できない場合は、まず **Enter Setup バーコード**をスキャンし、次に **Interleaved 2 of 5 バーコード**をスキャンしてみて下さい。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

Interleaved 2 of 5（ITF）の桁数範囲指定

Interleaved 2 of 5(ITF)では読み取れる桁数の範囲指定をして、指定桁数の Interleaved 2 of 5(ITF)バーコードのみ読み取りすることができます。この機能を実行するには、最大桁と最小桁の設定する必要があります。

@I25MIN
最小桁（初期設定:6）

@I25MAX
最大桁（初期設定:100）

最小桁が最大桁よりも大きい場合、バーコードリーダーは最小桁または最大桁のいずれかを持つ Interleaved 2 of 5(ITF) バーコードのみ読み取ります。最小桁が最大桁と同じ場合、その長さの Interleaved 2 of 5(ITF)バーコードのみ読み取ります。

バーコードリーダーが 8～1、2 文字の Interleaved 2 of 5(ITF) バーコードを読み取る設定方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **最小桁（初期設定:6)バーコード**をスキャンします。
3. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録 の**「保存/キャンセル バーコード」** セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁（初期設定:100)バーコード**をスキャンします。
6. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「8」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の**「保存/キャンセル バーコード」** セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup バーコード**をスキャンします。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

チェックキャラクタの送信

チェックキャラクタは Interleaved 2 of 5(ITF)のオプションです。最後の 2 桁を整合性を確認するためのチェックキャラクタとして追加できます。

無効：バーコードリーダーは Interleaved 2 of 5(ITF) バーコードをそのまま送信します。

確認後　チェックキャラクタを送信しない： Interleaved 2 of 5(ITF)バーコードの整合性を確認します。確認後、問題がなければバーコードはチェックキャラクタを除いて送信されます。確認に問題があった場合、バーコード情報は送信されません。

確認後　チェックキャラクタを送信する: Interleaved 2 of 5(ITF)バーコードの整合性を確認します。確認後、問題がなければバーコード情報は送信されますが、確認に問題があった場合、バーコード情報は送信されません。

Interleaved 2 of 5(ITF) バーコードの桁数は常に偶数であるため、チェックキャラクタを追加する際、最初の桁に 0 を追加する必要があります。チェックキャラクタは Interleaved 2 of 5(ITF) バーコードを作成する際自動的に生成されます。

@I25CHK0

**** 無効**

@I25CHK1

確認後　チェックキャラクタを送信しない

@I25CHK2

確認後　チェックキャラクタを送信する

確認後　チェックキャラクタを送信しないが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の Interleaved 2 of 5(ITF) バーコードの長さが設定した最小桁より短ければ読み込まれません。(例:**確認後　チェックキャラクタを送信しない**が有効かつ最小桁を 4 に設定した際、Interleaved 2 of 5(ITF) バーコードのチェックキャラクタを含む合計の長さが 4 の場合、読み込まれません)。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

Febraban

Febraban を有効 / 無効

@I25FBB0
**** Febraban 無効**

@I25FBB1
Febraban 有効 拡張なし

@I25FBB2
Febraban 有効 拡張あり

文字間のディレイ

文字間のディレイ（遅延）の設定は、Febraban の拡張ありと拡張なしの両方に適用されます。この機能は、USBHID キーボードが有効な場合のみ使用できます。

@FEBSEN0
**** 文字間のディレイ 無効**

@FEBSEN1
文字間のディレイ 有効

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

以下より遅延させる値を選択できます。

@FEBSDT0

0ms

@FEBSDT5

5ms

@FEBSDT10

10ms

@FEBSDT15

15ms

@FEBSDT20

20ms

@FEBSDT25

25ms

@FEBSDT30

30ms

@FEBSDT35

35ms

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

@FEBSDT40

40ms

@FEBSDT45

45ms

@FEBSDT50

50ms

@FEBSDT55

55ms

@FEBSDT60

60ms

@FEBSDT65

65ms

@FEBSDT70

**** 70ms**

@FEBSDT75

75ms

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

12 文字のディレイ

12 文字のディレイは、Febraban が拡張ありの場合のみ適用されます。この機能は、USBHID キーボードが有効な場合のみ使用できます。

@FEBMEN0

**** 12 文字のディレイ 無効**

@FEBMEN1

12 文字のディレイ 無効

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

以下より遅延させる値を選択できます。

@FEBMDT0
0ms

@FEBMDT1
300ms

@FEBMDT2
400ms

@FEBMDT3
**** 500ms**

@FEBMDT4
600ms

@FEBMDT5
700ms

@FEBMDT6
800ms

@FEBMDT7
900ms

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

ITF-14

ITF-14 は長さが 14 桁で末尾にチェックキャラクタがある特殊な Interleaved 2 of 5（ITF） バーコードです。

14 桁の長さで末尾にチェックキャラクタがある Interleaved 2 of 5（ITF）バーコードは、ITF-14 の設定が Interleaved 2 of 5 の設定よりも優先されます。

工場出荷状態に戻す

@I14DEF

ITF-14 を工場出荷状態に戻す

ITF-14 を有効 / 無効

@I14ENA0

ITF-14 無効

@I14ENA1

**** ITF-14 有効**
チェックキャラクタを送信しない

@I14ENA2

ITF-14 有効
チェックキャラクタを送信する

ITF-14 優先原則の例：ITF-14 が有効で Interleaved 2 of 5（ITF）が無効の場合、14 桁の長さで末尾にチェックキャラクタがある Interleaved 2 of 5（ITF）バーコードのみを読み取ります。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

ITF-6

ITF-6 は 6 桁の長さで末尾にチェックキャラクタがある Interleaved 2 of 5（ITF）バーコードです。

6桁の長さで末尾にチェックキャラクタがある Interleaved 2 of 5（ITF）バーコードは、ITF-6の設定が Interleaved 2 of 5 の設定よりも優先されます。

工場出荷状態に戻す

@IT6DEF
ITF-6 を工場出荷状態に戻す

ITF-6 を有効 / 無効

@IT6ENA0
**** ITF-6 有効**

@IT6ENA1
ITF-6 有効
チェックキャラクタを送信しない

@IT6ENA2
ITF-6 有効
チェックキャラクタを送信する

ITF-6 優先原則の例：ITF-6 が有効で Interleaved 2 of 5（ITF）が無効の場合、6 の長さで末尾にチェックキャラクタがある Interleaved 2 of 5（ITF）バーコードのみを読み取ります。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

Matrix 2 of 5

工場出荷状態に戻す

@M25DEF

Matrix 2 of 5 を工場出荷状態に戻す

Matrix 2 of 5 を有効 / 無効

@M25ENA1

Matrix 2 of 5　有効

@M25ENA0

**** Matrix 2 of 5　無効**

バーコードリーダーが Matrix 2 of 5 バーコードを識別できない場合は、
まず **Enter Setup バーコード**をスキャンし、次に **Matrix 2 of 5　有効バーコード**をスキャンしてみて下さい。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

Matrix 2 of 5 の桁数範囲指定

Matrix 2 of 5 では読み取れる桁数の範囲指定をして、指定桁数の Matrix 2 of 5 バーコードのみ読み取りすることができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。

@M25MIN
最小桁 （初期設定：6）

@M25MAX
最大桁 （初期設定：127）

最小桁が最大桁よりも大きい場合、バーコードリーダーは最小桁または最大桁のいずれかを持つ Matrix 2 of 5 バーコードのみ読み取ります。最小桁が最大桁と同じ場合、その長さの Matrix 2 of 5 バーコードのみ読み取ります。

バーコードリーダーが 8～1、2 文字の Matrix 2 of 5 バーコードを読み取る設定方法

1. **Enter Setup バーコード**をスキャンします。
2. **最小桁 （初期設定：6）バーコード**をスキャンします。
3. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録 の**「保存/キャンセル バーコード」**セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁 （初期設定：127）バーコード**をスキャンします。
6. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「8」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の**「保存/キャンセル バーコード」**セクションの **Save バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup バーコード**をスキャンします。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

チェックキャラクタの送信

チェックキャラクタは Matrix 2 of 5 のオプションであり、最後の 2 桁を整合性を確認するためのチェックキャラクタとして追加できます。

無効：バーコードリーダーは Matrix 2 of 5 バーコードをそのまま送信します。

確認後　チェックキャラクタを送信しない：Matrix 2 of 5 バーコードの整合性を確認します。確認後、問題がなければバーコードはチェックキャラクタを除いて送信されます。確認に問題があった場合、バーコード情報は送信されません。

確認後　チェックキャラクタを送信する：Matrix 2 of 5 バーコードの整合性を確認します。確認後、問題がなければバーコード情報は送信されますが、確認に問題があった場合、バーコード情報は送信されません。

Matrix 2 of 5 バーコードの桁数は常に偶数であるため、チェックキャラクタを追加する際、最初の桁に 0 を追加する必要があります。チェックキャラクタは Matrix 2 of 5　バーコードを作成する際自動的に生成されます。

@M25CHK0

無効

@M25CHK1

**** 確認後　チェックキャラクタを送信しない**

@M25CHK2

確認後　チェックキャラクタを送信する

確認後　チェックキャラクタを送信しないが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の Matrix 2 of 5 バーコードの長さが設定した最小桁より短ければ読み込まれません（例:**確認後　チェックキャラクタを送信しない**が有効かつ最小桁を 4 に設定した際、Matrix 2 of 5　バーコードのチェックキャラクタを含む合計の長さが 4 の場合、読み込まれません）。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

Code 39

工場出荷状態に戻す

@C39DEF
Code 39 を工場出荷状態に戻す

Code 39 を有効 / 無効

@C39ENA1
**** Code 39 有効**

@C39ENA0
Code 39 無効

バーコードリーダーが Code 39 バーコードを識別できない場合は、
まず **Enter Setup バーコード**をスキャンし、次に **Enable Code 39 バーコード**をスキャンしてみて下さい。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

Code 39 の桁数範囲指定

Code 39 では読み取れる桁数の範囲指定をして、指定桁数の Code 39 バーコードのみ読み取りすることができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。

@C39MIN

最小桁（初期設定：1）

@C39MAX

最大桁（初期設定：127）

最小桁が最大桁よりも大きい場合、バーコードリーダーは最小桁または最大桁のいずれかを持つ Code 39 バーコードのみ読み取ります。最小桁が最大桁と同じ場合、その長さの Code 39 バーコードのみ読み取ります。

バーコードリーダーが 8～1、2 文字の Code 39 バーコードを読み取る設定方法

1. **Enter Setup バーコード**をスキャンします。
2. **最小桁（初期設定：1）バーコード**をスキャンします。
3. **「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録 の**「保存/キャンセル バーコード」** セクションの保存バーコードをスキャンします。
5. **最大桁（初期設定：127）バーコード**をスキャンします。
6. **「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の**「保存/キャンセル バーコード」** セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

チェックキャラクタの送信

チェックキャラクタは Code 39 のオプションであり、最後の 2 桁を整合性を確認するためのチェックキャラクタとして追加できます。

無効：バーコードリーダーは Code 39 バーコードをそのまま送信します。

確認後　チェックキャラクタを送信しない：Code 39 バーコードの整合性を確認します。確認後、問題がなければバーコードはチェックキャラクタを除いて送信されます。確認に問題があった場合、バーコード情報は送信されません。

確認後　チェックキャラクタを送信する：Code 39 バーコードの整合性を確認します。確認後、問題がなければバーコード情報は送信されますが、確認に問題があった場合、バーコード情報は送信されません。

@C39CHK0
**** 無効**

@C39CHK1
確認後　チェックキャラクタを送信しない

@C39CHK2
確認後　チェックキャラクタを送信する

確認後　チェックキャラクタを送信しないが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の Code 39 バーコードの長さが設定した最小桁より短ければ読み込まれません
(例:**確認後　チェックキャラクタを送信しない**が有効かつ最小桁を 4 に設定した際、Code 39 バーコードのチェックキャラクタを含む合計の長さが 4 の場合、読み込まれません)。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

スタート/ストップキャラクタを送信

Code39 では、スタートとストップをアスタリスク(*)を挟みます。以下の適切なバーコードをスキャンすることで、開始文字と終了文字を送信するか選択できます。

@C39TSC0

**** スタート/ストップキャラクタを送信しない**

@C39TSC1

スタート/ストップキャラクタを送信する

Code 39 Full ASCII を有効 / 無効

バーコードリーダーを設定すると、以下の適切なバーコードをスキャンして、各 ASCII 文字を識別できるようになります。

@C39ASC0

Code 39 Full ASCII 無効

@C39ASC1

**** Code 39 Full ASCII 有効**

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

Code 32 (イタリア製薬業界用コード)を有効 / 無効

Code32 は、イタリアの製薬業界で使用されている Code39 の一種です。以下の適切なバーコードをスキャンして、Code32　有効または無効にします。この設定が機能するためには、Code39 を有効し、Code39 チェックキャラクタの送信　無効する必要があります。

@C39E320
**** Code 32　無効**

@C39E321
Code 32　有効

Code 32 プリフィックス

以下の適切なバーコードをスキャンして、すべての Code32 バーコードにプリフィックス「A」の追加　有効または無効にします。この設定をするには、Code32 が有効になっている必要があります。

@C39S320
**** Code 32 プリフィックス　無効**

@C39S321
Code 32 プリフィックス　有効

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

Code 32 スタート/ストップキャラクタの送信

Code32 が機能するためにはこの設定が有効にする必要があります。

@C39T320

**** Code 32 のスタート/ストップキャラクタを送信しない**

@C39T321

Code 32 のスタート/ストップキャラクタを送信する

Code 32 のチェックキャラクタを送信

Code32 が機能するためにはこの設定が有効にする必要があります。

@C39C320

**** Code 32 のチェックキャラクタを送信しない**

@C39C321

Code 32 のチェックキャラクタを送信する

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

NW7（CODABAR）

工場出荷状態に戻す

@CBADEF
NW7（CODABAR）を工場出荷状態に戻す

NW7（CODABAR）を有効 / 無効

@CBAENA1
**** NW7（CODABAR） 有効**

@CBAENA0
NW7（CODABAR） 無効

バーコードリーダーが NW7（CODABAR）コードを識別できない場合は、
まず **Enter Setup バーコード**をスキャンし、次に **NW7（CODABAR） 有効バーコード**
をスキャンしてみて下さい。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

NW7（CODABAR） コードの長さ範囲設定

NW7（CODABAR）では読み取れる桁数の範囲指定をして、指定桁数の NW7（CODABAR） コードのみ読み取るように設定することができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。

@CBAMIN

最小桁 （初期設定：1）

@CBAMAX

最大桁 （初期設定：127）

最小桁が最大桁よりも大きい場合、バーコードリーダーは最小桁または最大桁のいずれかを持つ NW7（CODABAR）コードのみ読み取ります。最小桁が最大桁と同じ場合、その長さの NW7（CODABAR）コードのみ読み取ります。

バーコードリーダーが 8～1、2 文字の NW7（CODABAR） コードを読み取る設定方法

1. **Enter Setup バーコード**をスキャンします。
2. **最小桁 （初期設定：1）バーコード**をスキャンします。
3. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録 の**「保存/キャンセル バーコード」**セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁 （初期設定：127）バーコード**をスキャンします。
6. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の**「保存/キャンセル バーコード」**セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup バーコード**をスキャンします。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

チェックキャラクタの送信

チェックキャラクタは NW7（CODABAR）のオプションであり、最後の 2 桁を整合性を確認するためのチェックキャラクタとして追加できます。

無効化：バーコードリーダーは NW7（CODABAR）コードをそのまま送信します。

確認後　チェックキャラクタを送信しない： NW7（CODABAR）バーコードの整合性を確認します。確認後、問題がなければバーコードはチェックキャラクタを除いて送信されます。確認に問題があった場合、バーコード情報は送信されません。

確認後　チェックキャラクタを送信する：バーコードリーダーは、NW7（CODABAR）バーコードの整合性を確認します。確認後、問題がなければバーコード情報は送信されますが、確認に問題があった場合、バーコード情報は送信されません。

@CBACHK0

**** 無効**

@CBACHK1

確認後　チェックキャラクタを送信しない

@CBACHK2

確認後　チェックキャラクタを送信する

確認後　チェックキャラクタを送信しないが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の NW7（CODABAR）バーコードの長さが設定した最小桁より短ければ読み込まれません（例：**確認後　チェックキャラクタを送信しない**が有効かつ最小桁を 4 に設定した際、NW7（CODABAR）バーコードのチェックキャラクタを含む合計の長さが 4 の場合、読み込まれません）。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

スタート/ストップキャラクタの送信

下記の該当するバーコードを読み取ることで、スタート/ストップキャラクタの設定や、送信の選択することができます。

@CBATSC0

**** スタート/ストップキャラクタを送信しない**

@CBATSC1

スタート/ストップキャラクタを送信する

@CBASCF0

**** ABCD/ABCD をストップキャラクタに設定**

@CBASCF1

ABCD/TN*E をストップキャラクタに設定

@CBASCF2

abcd/abcd をストップキャラクタに設定

@CBASCF3

abcd/tn*e をストップキャラクタに設定

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

Code 93

工場出荷状態に戻す

@C93DEF
Code 93 を工場出荷状態に戻す

Code 93 を有効 / 無効

@C93ENA1
****Code 93 有効**

@C93ENA0
Code 93 無効

バーコードリーダーが Code 93 バーコードを識別できない場合は、
まず **Enter Setup バーコード**をスキャンし、次に **Code 93 有効バーコード**をスキャンしてみて下さい。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

Code 93 の桁数範囲指定

Code 93 では読み取れる桁数の範囲指定をして、指定桁数の Code 93 バーコードのみ読み取りすることができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。

@C93MIN

最小桁 (初期設定:3)

@C93MAX

最小桁 (初期設定:127)

最小桁が最大桁よりも大きい場合、バーコードリーダーは最小桁または最大桁のいずれかを持つ Code 93 バーコードのみ読み取ります。最小桁が最大桁と同じ場合、その長さの Code 93 バーコードのみ読み取ります。

Example

バーコードリーダーが 8～1、2 文字の Code 93 バーコードを読み取る設定方法

1. **Enter Setup バーコード**をスキャンします。
2. **最小桁 (初期設定:3)バーコード**をスキャンします。
3. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録 の**「保存/キャンセル バーコード」**セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最小桁 (初期設定:127)バーコード**をスキャンします。
6. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の**「保存/キャンセル バーコード」**セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup バーコード**をスキャンします。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

チェックキャラクタの送信

チェックキャラクタは Code 93 のオプションであり、最後の 2 桁を整合性を確認するためのチェックキャラクタとして追加できます。

無効：バーコードリーダーは Code 93 バーコードをそのまま送信します。

確認後　チェックキャラクタを送信しない： Code 93 バーコードの整合性を確認します。確認後、問題がなければバーコードはチェックキャラクタを除いて送信されます。確認に問題があった場合、バーコード情報は送信されません。

確認後　チェックキャラクタを送信する：Code 93 バーコードの整合性を確認します。確認後、問題がなければバーコード情報は送信されますが、確認に問題があった場合、バーコード情報は送信されません。

@C93CHK0
無効

@C93CHK1
**** 確認後　チェックキャラクタを送信しない**

@C93CHK2
確認後　チェックキャラクタを送信する

確認後　チェックキャラクタを送信しないが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の Code 93 バーコードの長さが設定した最小桁より短ければ読み込まれません(例:**確認後　チェックキャラクタを送信しない**が有効かつ最小桁を 4 に設定した際、Code 93 バーコードのチェックキャラクタを含む合計の長さが 4 の場合、読み込まれません)。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

GS1-128 (UCC/EAN-128)

工場出荷状態に戻す

@GS1DEF

GS1-128 を工場出荷状態に戻す

GS1-128 を有効 / 無効

@GS1ENA1

**** GS1-128 有効**

@GS1ENA0

GS1-128 無効

バーコードリーダーが GS1-128 バーコードを識別できない場合は、
まず **Enter Setup バーコード**をスキャンし、次に **GS1-128 有効バーコード**をスキャンしてみて下さい。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

GS1-128 の桁数範囲指定

GS1-128 では読み取れる桁数の範囲指定をして、指定桁数の GS1-128 バーコードのみ読み取りすることができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。

@GS1MIN
最小桁（初期設定：1）

@GS1MAX
最大桁（初期設定：127）

最小桁が最大桁よりも大きい場合、バーコードリーダーは最小桁または最大桁のいずれかを持つ GS1-128 バーコードのみ読み取ります。最小桁が最大桁と同じ場合、その長さの GS1-128 バーコードのみ読み取ります。

バーコードリーダーが 8～1、2 文字の GS1-128 バーコードを読み取る設定方法

1. **Enter Setup バーコード**をスキャンします。
2. **最小桁（初期設定：1）バーコード**をスキャンします。
3. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録 の**「保存/キャンセル　バーコード」**セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁（初期設定：127）バーコード**をスキャンします。
6. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の**「保存/キャンセル　バーコード」**セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup バーコード**をスキャンします。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

チェックキャラクタを送信

@GS1CHK2

GS1-128 チェックキャラクタを送信する

@GS1CHK1

** GS1-128 チェックキャラクタを送信しない

@SETUPE0

** Exit Setup

@SETUPE1
Enter Setup

GS1 Databar (RSS)

工場出荷状態に戻す

@RSSDEF
GS1 Databar を工場出荷状態に戻す

GS1 Databar を有効 / 無効

@RSSENA1
**** GS1 Databar 有効**

@RSSENA0
GS1 Databar 無効

バーコードリーダーが GS1 Databar バーコードを識別できない場合は、
まず **Enter Setup バーコード**をスキャンし、次に **GS1 Databar 有効バーコード**をスキャンしてみて下さい。

アプリケーション識別子「01」を送信

@RSSTAI1
**** アプリケーション識別子"01"を送信する**

@RSSTAI0
アプリケーション識別子"01"を送信しない

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

Code 11

工場出荷状態に戻す

@C11DEF
Code 11 を工場出荷状態に戻す

Code 11 を有効 / 無効

@C11ENA1
**** Code 11 有効**

@C11ENA0
Code 11 無効

バーコードリーダーが Code 11 バーコードを識別できない場合は、
まず **Enter Setup バーコード**をスキャンし、次に **Code 11 有効バーコード**をスキャンしてみて下さい。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

Code 11 の桁数範囲指定

Code 11 では読み取れる桁数の範囲指定をして、指定桁数の Code 11 バーコードのみ読み取りすることができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。

@C11MIN
最小桁 （初期設定：2）

@C11MAX
最大桁 （初期設定：127）

最小桁が最大桁よりも大きい場合、バーコードリーダーは最小桁または最大桁のいずれかを持つ Code 11 バーコードのみ読み取ります。最小桁が最大桁と同じ場合、その長さの Code 11 バーコードのみ読み取ります。

バーコードリーダーが 8～1、2 文字の Code 11 バーコードを読み取る設定方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **最小桁 （初期設定：2）バーコード**をスキャンします。
3. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録 の**「保存/キャンセル　バーコード」**セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁 （初期設定：127）バーコード**をスキャンします。
6. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の**「保存/キャンセル　バーコード」**セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup バーコード**をスキャンします。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

チェックキャラクタの送信

チェックキャラクタは Code 11 のオプションであり、最後の 2 桁を整合性を確認するためのチェックキャラクタとして追加できます。

無効の設定にすると、バーコードリーダーは Code 11 バーコードをそのまま送信します。

@C11CHK0

無効

@C11CHK1

**** チェックキャラクタ 1 文字「MOD11」**

@C11CHK2

チェックキャラクタ 2 文字「MOD11/MOD11」

@C11CHK3

チェックキャラクタ 2 文字「MOD11/MOD9」

@C11CHK4

チェックキャラクタ 1 文字「MOD11」(Len<=10)
チェックキャラクタ 2 文字「MOD11/MOD11」(Len>10)

@C11CHK5

チェックキャラクタ 1 文字「MOD11」(Len<=10)
チェックキャラクタ 2 文字「MOD11/MOD9」(Len>10)

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

チェックキャラクタを送信

@C11TCK0
**** Code 11 のチェックキャラクタを送信しない**

@C11TCK1
Code 11 のチェックキャラクタを送信する

確認後　チェックキャラクタを送信しないが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の Code 11 バーコードの長さが設定した最小桁より短ければ読み込まれません
(例:**チェックキャラクタ 1 文字「MOD11」、Code 11 のチェックキャラクタを送信しない**の各オプションが有効かつ最小桁を 4 に設定した際、Code 11 バーコードのチェックキャラクタを含む合計の長さが 4 の場合、読み込まれません)。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

ISBN

工場出荷状態に戻す

@ISBDEF
ISBN を工場出荷状態に戻す

ISBN を有効 / 無効

@ISBENA1
**** ISBN 有効**

@ISBENA0
ISBN 無効

バーコードリーダーが ISBN バーコードを識別できない場合は、
まず **Enter Setup バーコード**をスキャンし、次に **ISBN 有効バーコード**をスキャンしてみて下さい。

ISBN フォーマットを設定

@ISBT101
**** ISBN-10**

@ISBT100
ISBN-13

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

2 桁のアドオンコード

ISBN バーコードは、2 桁のアドオンコードを追加して、新しいバーコードを形成できます。

@ISBAD20

**** 2 桁のアドオンコード 無効**

@ISBAD21

2 桁のアドオンコード 有効

2 桁のアドオンコード 無効：バーコードリーダーは、ISBN と 2 桁のアドオン バーコードが表示されている場合、ISBN を読み取り、アドオンコードを無視します。また、2 桁のアドオンコードのない ISBN バーコードも読み取ることができます。

2 桁のアドオンコード 有効：2 桁のアドオンコードを含む ISBN バーコードと含まない ISBN バーコードの両方を読み取ります。

5 桁のアドオンコード

ISBN バーコードは、5 桁のアドオンコードを追加して、新しいバーコードを形成できます。

@ISBAD50

**** 5 桁のアドオンコード 無効**

@ISBAD51

5 桁のアドオンコード 有効

5 桁のアドオンコード 無効：バーコードリーダーは、ISBN と 5 桁のアドオン バーコードが表示されている場合、ISBN を読み取り、アドオンコードを無視します。また、5 桁のアドオンコードのない ISBN バーコードも読み取ることができます。

5 桁のアドオンコード 有効：5 桁のアドオンコードを含む ISBN バーコードと含まない ISBN バーコードの両方を読み取ります。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

アドオンコード必須

ISBN のアドオンコード必須が設定されている場合、バーコードリーダーはアドオンコードを含む ISBN バーコードのみを読み取ります。

@ISBREQ0

**** ISBN のアドオンコード必須としない**

@ISBREQ1

ISBN のアドオンコード必須

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

ISSN

工場出荷状態に戻す

@ISSDEF
ISSN を工場出荷状態に戻す

ISSN を有効 / 無効

@ISSENA1
ISSN 有効

@ISSENA0
**** ISSN 無効**

バーコードリーダーが ISSN バーコードを識別できない場合は、
まず **Enter Setup バーコード**をスキャンし、次に **ISSN 有効バーコード**をスキャンしてみて下さい。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

2 桁のアドオンコード

ISBN バーコードは、2 桁のアドオンコードを追加して、新しいバーコードを形成できます。

@ISBAD20

**** 2 桁のアドオンコードを無効**

@ISBAD21

2 桁のアドオンコードを有効

2 桁のアドオンコード　無効：バーコードリーダーは、ISBN と 2 桁のアドオン バーコードが表示されている場合、ISBN を読み取り、アドオンコードを無視します。また、2 桁のアドオンコードのない ISBN バーコードも読み取ることができます。

2 桁のアドオンコード　有効：2 桁のアドオンコードを含む ISBN バーコードと含まない ISBN バーコードの両方を読み取ります。

5 桁のアドオンコード

ISBN バーコードは、5 桁のアドオンコードを追加して、新しいバーコードを形成できます。

@ISBAD50

**** 5 桁のアドオンコード　無効**

@ISBAD51

5 桁のアドオンコード　有効

5 桁のアドオンコード　無効：バーコードリーダーは、ISBN と 5 桁のアドオン バーコードが表示されている場合、ISBN を読み取り、アドオンコードを無視します。また、5 桁のアドオンコードのない ISBN バーコードも読み取ることができます。

5 桁のアドオンコード　有効：5 桁のアドオンコードを含む ISBN バーコードと含まない ISBN バーコードの両方を読み取ります。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

アドオンコード必須

ISBN のアドオンコード必須が設定されている場合、、バーコードリーダーはアドオンコードを含む ISBN バーコードのみを読み取ります。

@ISBREQ0
**** ISBN のアドオンコード必須としない**

@ISBREQ1
ISBN のアドオンコード必須

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

Industrial 25

工場出荷状態に戻す

@L25DEF

Industrial 25 を工場出荷状態に戻す

Industrial 25 を有効 / 無効

@L25ENA1

**** Industrial 25 有効**

@L25ENA0

Industrial 25 無効

バーコードリーダーが Industrial 25 バーコードを識別できない場合は、
まず **Enter Setup バーコード**をスキャンし、次に **Industrial 25 有効バーコード**をスキャンしてみて下さい。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

Industrial 25 の桁数範囲指定

Industrial 25 では読み取れる桁数の範囲指定をして、指定桁数の Industrial 25 バーコードのみ読み取りすることができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。

@L25MIN
最小桁 （初期設定：6）

@L25MAX
最大桁 （初期設定：127）

最小桁が最大桁よりも大きい場合、バーコードリーダーは最小桁または最大桁のいずれかを持つ Industrial 25 バーコードのみ読み取ります。最小桁が最大桁と同じ場合、その長さの Industrial 25 バーコードのみ読み取ります。

バーコードリーダーが 8～1、2 文字の Industrial 25 バーコードを読み取る設定方法

1. **Enter Setup バーコード**をスキャンします。
2. **最小桁 （初期設定：6）バーコード**をスキャンします。
3. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録 の**「保存/キャンセル　バーコード」**セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁 （初期設定：127）バーコード**をスキャンします。
6. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の**「保存/キャンセル　バーコード」**セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup バーコード**をスキャンします。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

チェックキャラクタの送信

チェックキャラクタは Industrial 25 のオプションであり、最後の 2 桁を整合性を確認するためのチェックキャラクタとして追加できます。

無効：バーコードリーダーは Industrial 25 バーコードをそのまま送信します。

確認後　チェックキャラクタを送信しない： Industrial 25 バーコードの整合性を確認します。確認後、問題がなければバーコードはチェックキャラクタを除いて送信されます。確認に問題があった場合、バーコード情報は送信されません。

確認後　チェックキャラクタを送信する： Industrial 25 バーコードの整合性を確認します。確認後、問題がなければバーコード情報は送信されますが、確認に問題があった場合、バーコード情報は送信されません。

@L25CHK0

**** 無効**

@L25CHK1

確認後　チェックキャラクタを送信しない

@L25CHK2

確認後　チェックキャラクタを送信する

確認後　チェックキャラクタを送信しないが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の Industrial 25 バーコードの長さが設定した最小桁より短ければ読み込まれません（例：**確認後　チェックキャラクタを送信しない**が有効かつ最小桁を 4 に設定した際、Industrial 25 バーコードのチェックキャラクタを含む合計の長さが 4 の場合、読み込まれません）。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

Standard 25

工場出荷状態に戻す

@S25DEF
Standard 25 を工場出荷状態に戻す

Standard 25 を有効 / 無効

@S25ENA1
**** Standard 25　有効**

@S25ENA0
Standard 25　無効

バーコードリーダーが Standard 25 バーコードを識別できない場合は、
まず **Enter Setup バーコード**をスキャンし、次に **Standard 25　有効バーコード**をスキャンしてみて下さい。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

Standard 25 の桁数範囲指定

Standard 25 では読み取れる桁数の範囲指定をして、指定桁数の Standard 25 バーコードのみ読み取りすることができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。

@S25MIN
最小桁（初期設定:6）

@S25MAX
最大桁（初期設定:127）

最小桁が最大桁よりも大きい場合、バーコードリーダーは最小桁または最大桁のいずれかを持つ Standard 25 バーコードのみ読み取ります。最小桁が最大桁と同じ場合、その長さの Standard 25 バーコードのみ読み取ります。

バーコードリーダーが 8～1、2 文字の Standard 25 バーコードを読み取る設定方法

1. **Enter Setup バーコード**をスキャンします。
2. **最小桁（初期設定:6）バーコード**をスキャンします。
3. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録 の**「保存/キャンセル　バーコード」**セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁**（初期設定:127）バーコードをスキャンします。
6. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の**「保存/キャンセル　バーコード」**セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup バーコード**をスキャンします。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

チェックキャラクタの送信

チェックキャラクタは Standard 25 のオプションであり、最後の 2 桁を整合性を確認するためのチェックキャラクタとして追加できます。

無効：バーコードリーダーは Standard 25 バーコードをそのまま送信します。

確認後　チェックキャラクタを送信しない： Standard 25 バーコードの整合性を確認します。確認後、問題がなければバーコードはチェックキャラクタを除いて送信されます。確認に問題があった場合、バーコード情報は送信されません。

確認後　チェックキャラクタを送信する： Standard 25 バーコードの整合性を確認します。確認後、問題がなければバーコード情報は送信されますが、確認に問題があった場合、バーコード情報は送信されません。

@S25CHK0
**** 無効**

@S25CHK1
確認後　チェックキャラクタを送信しない

@S25CHK2
確認後　チェックキャラクタを送信する

確認後　チェックキャラクタを送信しないが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の Standard 25 バーコードの長さが設定した最小桁より短ければ読み込まれません(例:**確認後　チェックキャラクタを送信しない**が有効かつ最小桁を 4 に設定した際、Standard 25 バーコードのチェックキャラクタを含む合計の長さが 4 の場合、読み込まれません)。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

Plessey

工場出荷状態に戻す

@PLYDEF
Plessey を工場出荷状態に戻す

Plessey を有効 / 無効

@PLYENA1
**** Plessey 有効**

@PLYENA0
Plessey 無効

バーコードリーダーが Plessey バーコードを識別できない場合は、
まず **Enter Setup バーコード**をスキャンし、次に **Plessey 有効バーコード**をスキャンしてみて下さい。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

Plessey の桁数範囲指定

Plessey では読み取れる桁数の範囲指定をして、指定桁数の Plessey バーコードのみ読み取りすることができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。

@PLYMIN
最小桁 (初期設定:1)

@PLYMAX
最大桁 (初期設定:127)

最小桁が最大桁よりも大きい場合、バーコードリーダーは最小桁または最大桁のいずれかを持つ Plessey バーコードのみ読み取ります。最小桁が最大桁と同じ場合、その長さの Plessey バーコードのみ読み取ります。

バーコードリーダーが 8～1、2 文字の Plessey バーコードを読み取るように設定する方

1. **Enter Setup バーコード**をスキャンします。
2. **最小桁 (初期設定:1)バーコード**をスキャンします。
3. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録 の**「保存/キャンセル バーコード」**セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁 (初期設定:127)**バーコードをスキャンします。
6. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の**「保存/キャンセル バーコード」**セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup バーコード**をスキャンします。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

チェックキャラクタの送信

チェックキャラクタは Plessey のオプションであり、最後の 2 桁を整合性を確認するためのチェックキャラクタとして追加できます。

無効：バーコードリーダーは Plessey バーコードをそのまま送信します。

確認後　チェックキャラクタを送信しない：Plessey バーコードの整合性を確認します。確認後、問題がなければバーコードはチェックキャラクタを除いて送信されます。確認に問題があった場合、バーコード情報は送信されません。

確認後　チェックキャラクタを送信する：Plessey バーコードの整合性を確認します。確認後、問題がなければバーコード情報は送信されますが、確認に問題があった場合、バーコード情報は送信されません。

@PLYCHK0

無効

@PLYCHK1

****確認後　チェックキャラクタを送信しない**

@PLYCHK2

確認後　チェックキャラクタを送信する

確認後　チェックキャラクタを送信しないが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の Plessey バーコードの長さが設定した最小桁より短ければ読み込まれません（例：**確認後　チェックキャラクタを送信しない**が有効かつ最小桁を 4 に設定した際、Plessey バーコードのチェックキャラクタを含む合計の長さが 4 の場合、読み込まれません）

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

MSI-Plessey

工場出荷状態に戻す

@MSIDEF
MSI-Plessey を工場出荷状態に戻す

MSI-Plessey を有効 / 無効

@MSIENA1
**** MSI-Plessey 有効**

@MSIENA0
MSI-Plessey 無効

バーコードリーダーが MSI-Plessey バーコードを識別できない場合は、
まず **Enter Setup バーコード**をスキャンし、次に **MSI-Plessey 有効バーコード**をスキャンしてみて下さい。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

MSI-Plessey の桁数範囲指定

MSI-Plessey では読み取れる桁数の範囲指定をして、指定桁数の MSI-Plessey バーコードのみ読み取りすることができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。

@MSIMIN

最小桁（初期設定:2）

@MSIMAX

最大桁（初期設定:127）

最小桁が最大桁よりも大きい場合、バーコードリーダーは最小桁または最大桁のいずれかを持つ MSI-Plessey バーコードのみ読み取ります。最小桁が最大桁と同じ場合、その長さの MSI-Plessey バーコードのみ読み取ります。

バーコードリーダーが 8～1、2 文字の MSI-Plessey バーコードを読み取る設定方法

1. **Enter Setup バーコード**をスキャンします。
2. **最小桁（初期設定:2）バーコード**をスキャンします。
3. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録 の**「保存/キャンセル　バーコード」**セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁（初期設定:127）バーコード**をスキャンします。
6. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の**「保存/キャンセル　バーコード」**セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup バーコード**をスキャンします。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

チェックキャラクタの送信

チェックキャラクタは MSI-Plessey のオプションであり、最後の 2 桁を整合性を確認するためのチェックキャラクタとして追加できます。

無効の設定にすると、バーコードリーダーは MSI-Plessey バーコードをそのまま送信します。

@MSICHK0
無効

@MSICHK1
**** チェックキャラクタ 1 文字「MOD10」**

@MSICHK2
チェックキャラクタ 2 文字「MOD10/MOD10」

@MSICHK3
チェックキャラクタ 2 文字「MOD10/MOD11」

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

チェックキャラクタの送信

@MSITCK1

MSI-Plessey のチェックキャラクタを送信する

@MSITCK0

**** MSI-Plessey のチェックキャラクタを送信しない**

確認後　チェックキャラクタを送信しないが有効の場合、チェックキャラクタを除外後の MSI-Plessey バーコードの長さが設定した最小桁より短ければ読み込まれません（例:**チェックキャラクタ 1 文字「MOD10」、MSI-Plessey のチェックキャラクタを送信しない**の各オプションが有効かつ最小桁を 4 に設定した際、MSI-Plessey バーコードのチェックキャラクタを含む合計の長さが 4 の場合、読み込まれません）

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

AIM 128

工場出荷状態に戻す

@AIMDEF
AIM 128 を工場出荷状態に戻す

AIM 128 を有効 / 無効

@AIMENA1
**** AIM 128 有効**

@AIMENA0
AIM 128 無効

バーコードリーダーが AIM 128 バーコードを識別できない場合は、
まず **Enter Setup バーコード**をスキャンし、次に **AIM 128 有効バーコード**をスキャンしてみて下さい。

チェックキャラクタの送信

@AIMCHK2
AIM 128 チェックキャラクタを送信する

@AIMCHK1
**** AIM 128 チェックキャラクタを送信しない**

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

AIM 128 の桁数範囲指定

AIM 128 では読み取れる桁数の範囲指定をして、指定桁数の AIM 128 バーコードのみ読み取りすることができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。

@AIMMIN
最小桁 （初期設定：1）

@AIMMAX
最大桁 （初期設定：127）

最小桁が最大桁よりも大きい場合、バーコードリーダーは最小桁または最大桁のいずれかを持つ AIM 128 バーコードのみ読み取ります。最小桁が最大桁と同じ場合、その長さの AIM 128 バーコードのみ読み取ります。

バーコードリーダーが 8～1、2 文字の AIM128 バーコードを読み取る設定方法

1. **Enter Setup バーコード**をスキャンします。
2. **最小桁 （初期設定：1）バーコード**をスキャンします。
3. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録 の**「保存/キャンセル　バーコード」**セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁 （初期設定：127）バーコード**をスキャンします。
6. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の**「保存/キャンセル　バーコード」**セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup バーコード**をスキャンします。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

PDF417

工場出荷状態に戻す

@PDFDEF
PDF417 を工場出荷状態に戻す

PDF417 を有効 / 無効

@PDFENA1
**** PDF417 有効**

@PDFENA0
PDF417 無効

バーコードリーダーが PDF417 バーコードを識別できない場合は、
まず **Enter Setup バーコード**をスキャンし、次に **PDF417 有効バーコード**をスキャンしてみて下さい。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

PDF417 の桁数範囲指定

PDF417 では読み取れる桁数の範囲指定をして、指定桁数の PDF417 バーコードのみ読み取りすることができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。

@PDFMIN

最小桁（初期設定：1）

@PDFMAX

最大桁（初期設定：2710）

最小桁が最大桁よりも大きい場合、バーコードリーダーは最小桁または最大桁のいずれかを持つ PDF417 バーコードのみ読み取ります。最小桁が最大桁と同じ場合、その長さの PDF417 バーコードのみ読み取ります。

バーコードリーダーが 8～1、2 文字の PDF417 バーコードを読み取る設定方法

1.**Enter Setup バーコード**をスキャンします。

2.**最小桁（初期設定：1）バーコード**をスキャンします。

3.付録 の**「数字バーコード」**セクションにある数字バーコード「8」をスキャンします。

4.付録 の**「保存/キャンセル バーコード」**セクションの**保存バーコード**を スキャンします。

5.**最大桁（初期設定：2710）バーコード**をスキャンします。

6.付録 の**「数字バーコード」**セクションにある数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。

7.付録 の**「保存/キャンセル バーコード」** セクションの保存バーコードをスキャンします。

8.**Exit Setup バーコード**をスキャンします。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

PDF417 ツインコード

PDF417 ツインコードは 垂直または水平に並んだ 2 つの PDF417 バーコードです。2 つの PDF417 バーコードは必ず通常または白黒反転した PDF417 バーコードのどちらかになります。これらは類似した規格で互いに密接している必要があります。

PDF417 バーコードには 3 種類の読み取りオプションがあります。

- ✧ **シングル PDF417 のみ**：いずれか一方の PDF417 バーコードのみ読み取ります。
- ✧ **ツイン PDF417 のみ**:両方の PDF417 バーコードを読み込みます。
- ✧ **シングルとツインの両方**：両方の PDF417 バーコードを読み込みます。成功すると、両方の PDF417 バーコードを送信し、失敗した場合、いずれか一方の PDF417 バーコードのみ送信します。

@PDFDOU0
**** シングル PDF417 のみ**

@PDFDOU1
ツイン PDF417 のみ

@PDFDOU2
シングルとツインの両方

キャラクタエンコーディング

@PDFENC0
**** キャラクタエンコーディング　初期設定**

@PDFENC1
UTF-8

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

QR コード

工場出荷状態に戻す

@QRCDEF

QR コードを工場出荷状態に戻す

QR コードを有効 / 無効

@QRCENA1

**** QR コード 有効**

@QRCENA0

QR コード 無効

バーコードリーダーが QR コードを識別できない場合は、
まず **Enter Setup バーコード**をスキャンし、次に **QR コード 有効コード**をスキャンしてみて下さい。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

QR コードの長さ範囲設定

QR コードでは読み取れる桁数の範囲指定をして、指定桁数の QR コードのみ読み取るように設定することができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。

@QRCMIN
最小桁（初期設定：1）

@QRCMAX
最小桁（初期設定：7089）

TIPS

最小桁を最大桁より大きくすることはできません。特定の長さの QR コードを読み取りたい場合、最小桁と最大桁を指定の長さへ設定してください。

Example

スキャナーが 8～1、2 文字の QR コードを読み取る設定方法

1. Enter Setup **バーコード**をスキャンします。
2. **最小桁（初期設定：1）バーコード**をスキャンします。
3. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録 の**「保存/キャンセル　バーコード」**セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最小桁（初期設定：7089）バーコード**をスキャンします。
6. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の**「保存/キャンセル　バーコード」**セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. Exit Setup **バーコード**をスキャンします。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

QR ツインコード

QR ツインコードは 垂直または水平に並んだ 2 つの QR コードです。2 つの QR コードは必ず通常または白黒反転した QR コードのどちらかになります。これらは類似した規格で互いに密接している必要があります。

QR ツインコードには 3 種類の読み取りオプションがあります。

- ✧ **シングル QR のみ：**いずれか一方の QR コードのみ読み取ります。
- ✧ **ツイン QR のみ：**両方の QR コードを読み込みます。送信順:左(上)の QR コード→右(下)の QR コード 。
- ✧ **シングルとツインの両方：**両方の QR コードを読み込みます。成功すると、両方の QR コードを送信し、失敗した場合、いずれか一方の QR コードのみ送信します。

@QRCDOU0

**** シングル QR のみ**

@QRCDOU1

ツイン QR のみ

@QRCDOU2

シングルとツインの両方

キャラクタエンコーディング

@QRCENC0

**** キャラクタエンコーディング　初期設定**

@QRCENC1

UTF-8

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

Micro QR コード

工場出荷状態に戻す

@MQRDEF
Micro QR を工場出荷状態に戻す

Micro QR を有効 / 無効

@MQRENA1
**** Micro QR 有効**

@MQRENA0
Micro QR 無効

バーコードリーダーが Micro QR コードを識別できない場合は、
まず **Enter Setup バーコード**をスキャンし、次に **Micro QR 有効バーコード**をスキャンしてみて下さい。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

Micro QR コードの長さ範囲設定

Micro QR コードでは読み取れる桁数の範囲指定をして、指定桁数の Micro QR コードのみ読み取るように設定することができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。

@MQRMIN

最小桁（初期設定：1）

@MQRMAX

最大桁（初期設定：7089）

最小桁を最大桁より大きくすることはできません。特定の長さの Micro QR コードを読み取りたい場合、最小桁と最大桁を指定の長さへ設定してください。

バーコードリーダーが 8～1、2 文字の Micro QR コードを読み取る設定方法

1. **Enter Setup バーコード**をスキャンします。
2. **最小桁（初期設定：1）バーコード**をスキャンします。
3. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録 の**「保存/キャンセル　バーコード」**セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁（初期設定：7089）バーコード**をスキャンします。
6. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の**「保存/キャンセル　バーコード」**セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup バーコード**をスキャンします。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

Data Matrix

工場出荷状態に戻す

@DMCDEF
Data Matrix を工場出荷状態に戻す

Data Matrix を有効 / 無効

@DMCENA1
**** Data Matrix 有効**

@DMCENA0
Data Matrix 無効

バーコードリーダーが Data Matrix コードを識別できない場合は、
まず **Enter Setup バーコード**をスキャンし、次に **Data Matrix 有効バーコード**をスキャンしてみて下さい。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

Data Matrix コードの長さ範囲設定

Data Matrix では読み取れる桁数の範囲指定をして、指定桁数の Data Matrix コードのみ読み取るように設定することができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。

@DMCMIN

最小桁（初期設定:1）

@DMCMAX

最大桁（初期設定:3116）

最小桁を最大桁より大きくすることはできません。特定の長さの Matrix バーコードを読み取りたい場合、最小桁と最大桁を指定の長さへ設定してください。

バーコードリーダーが 8～12 文字の Data Matrix バーコードを読み取る設定方法

1. **Enter Setup バーコード**をスキャンします。
2. **最小桁（初期設定:1）バーコード**をスキャンします。
3. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録 の**「保存/キャンセル　バーコード」**セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁（初期設定:3116）バーコード**をスキャンします。
6. 付録 の**「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の**「保存/キャンセル　バーコード」**セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup バーコード**をスキャンします。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

Data Matrix ツインコード

Data Matrix ツインコードは 垂直または水平に並んだ 2 つの Data Matrix コードです。2 つの Data Matrix コードは必ず通常または白黒反転した Data Matrix コードのどちらかになります。これらは類似した規格で互いに密接している必要があります。

Data Matrix ツインコードには 3 種類の読み取りオプションがあります。

- ✧ **シングル Data Matrix のみ：**いずれか一方の Data Matrix バーコードのみ読み取ります。
- ✧ **ツイン Data Matrix のみ：**両方の QR コードを読み込みます。送信順:左（上）の Data Matrix バーコード→右（下）の Data Matrix バーコード 。
- ✧ **シングルとツインの両方：**両方の Data Matrix バーコードを読み込みます。成功すると、両方の Data Matrix バーコードを送信し、失敗した場合、いずれか一方の Data Matrix バーコードのみ送信します。

@DMCDOU0

**** シングル Data Matrix のみ**

@DMCDOU1

ツイン Data Matrix のみ

@DMCDOU2

シングルとツインの両方

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

長方形バーコード

Data Matrix には、2 種類の形式があります 。

長さと同じモジュール幅を持つ正方形のバーコード： 10×10、12×12...144×144

長さと同じモジュール幅を持つ長方形のバーコード：6×16、6×14...14×22

@DMCREC1

**** 長方形バーコード 有効**

@DMCREC0

長方形バーコード 無効

キャラクタエンコーディング

@DMCENC0

**** キャラクタエンコーディング 初期設定**

@DMCENC1

UTF-8

@SETUPE0

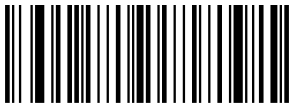
**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

第 6 章 データフォーマッタ

概要

データフォーマッタを使用して、バーコードリーダーの出力を変更できます。例えば、データフォーマッタを使用してバーコードデータの特定の位置に文字を挿入したり、バーコードデータをスキャンする際に特定の文字を抑制/置換/送信したりすることができます。通常、バーコードをスキャンすると自動的に出力されますが、フォーマットを作成した場合、データを出力する際、フォーマットのプログラミング内で「送信」コマンド（本章の「送信コマンド」の項目を参照）を使用する必要があります。複数のデータフォーマットをバーコードリーダーにプログラムできます。作成可能なデータフォーマットの最大サイズは、2048 文字です。初期設定では、データフォーマッタは無効ですので、必要に応じて有効にしてください。データフォーマットの設定を変更後、各フォーマットをクリアして工場出荷状態に戻したい場合は、以下の**データフォーマットを初期化バーコード**をスキャンしてください。


@DFMDEF
データフォーマットを初期化

データフォーマットを追加

データフォーマットは通常はバーコードデータの編集に使用されます。データフォーマットを作成する際、データフォーマットの 4 つのラベル（Format_0、Format_1、Format_2、Format_3）から 1 つを選択し、データフォーマットの適用範囲（バーコードタイプやデータ長さなど）を指定し、フォーマッタコマンドを含める必要があります。 同一のラベルで複数のデータフォーマットを作成できます。スキャンしたデータがデータフォーマットの要件と一致しない場合、非一致エラー音（ブザー）が鳴ります（**不一致エラー　ブザー**　有効の場合）。

データフォーマットのプログラムはバーコードによるプログラミングとシリアルコマンドによるプログラミングの 2 種類があります。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

バーコードでプログラミング

ここでは、特定のバーコードをスキャンしてデータフォーマットをプログラムする方法を説明します。無関係なバーコードをスキャンしたり、設定手順に従わなかったりすると、プログラミングに失敗します。データフォーマットの作成に必要な英数字のバーコードは、付録の「数字バーコード」の項を参照してください。

Step 1: Enter Setup バーコードをスキャンします。

Step2: データフォーマットを追加バーコードをスキャンします。

@DFMADD

データフォーマットを追加

Step 3:ラベルを選択（Format_0、Format_1、Format_2、Format_3 のいずれか）します。

数字のバーコード 0～3 のいずれかをスキャンして、このデータフォーマットの Format_0～3 のいずれかのラベルを付けます。

Step 4:フォーマッタのコマンドタイプを選択します。

使用するフォーマッタコマンドの種類を指定します。数字バーコードの 6 を読み取ると、フォーマッタコマンドタイプ 6 が選択されます。詳細は、本章の「フォーマッタコマンドタイプ 6」の項目を参照してください）。

Step 5: インターフェースのタイプを設定します。
各インターフェースに対応する 999 をスキャンします。

Step 6: シンボル ID を設定します。
付録の「シンボル ID」の項目を参照し、データフォーマットを適用したいシンボルの ID 番号を確認します。シンボル ID に該当する 3 つの数字バーコードをスキャンします。すべてのシンボルのデータフォーマットを作成したい場合は、999 をスキャンします。

Step 7: データの長さを設定します。

このシンボルで許容されるデータの長さを指定します。データの長さを表す 4 つの数字バーコードをスキャンします。9999 は、すべての長さに対応するユニバーサルナンバーです。例えば、32 文字の場合は「0032」と入力します。

Step 8: フォーマッタコマンドを入力します。
本章の「フォーマッタコマンドタイプ 6」の項を参照してください。データ編集に必要なコマンドを表す英数字のバーコードをスキャンします。例えば、コマンドが F141 の場合は、F141 をスキャンします。

Step 9: 付録 の「保存/キャンセル バーコード」 セクションの保存バーコードをスキャンしてデータフォーマットを保存します。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

例:フォーマッタコマンドタイプ 6 を使用して、Format_0 のデータフォーマットをプログラムします。Code 128 には 10 文字を適用し、すべての文字の後に「A 」を付けて送信します。

1. Enter Setup バーコードをスキャンします。	セットアップモードに入ります。
2. Add Data Format バーコードをスキャンします。	データフォーマットを追加します。
3.「0」バーコードをスキャンします。	ラベルに Format_0 を選択します。
4.「6」のバーコードをスキャンします。	フォーマッタコマンドタイプ 6 を選択します。
5.「9」のバーコードを 3 回スキャンします。	これですべてのインターフェースタイプにします。
6.「002」 のバーコードをスキャンします。	Code 128 のみ適用可能。
7.「0010」のバーコードをスキャンします。	10 文字までの長さのみ適用可能。
8. 英数字のバーコードをスキャンします。	F141 ″A ″に続くすべての文字を送信（HEX: 41）します。
9. Save barcode バーコードをスキャンします。	データフォーマットを実行します。

プログラミングプロセスを最適化するため、データフォーマットを作成するためのコマンド（例：**@DFMADD069990020010F141;**）を入力して、バッチバーコードを生成することもできます。バッチバーコードの使用方法については、当社へお問い合わせください。

ラベルを共有する複数のデータフォーマットを作成する場合、フォーマットは **@DFMADD069990029999F141|069990039999F142|069990049999F143;**のように、バッチコマンドの中で縦棒（｜）でお互い区切られています。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

シリアルコマンドによるプログラミング

データフォーマットは、接続端末から受信するシリアルコマンド（HEX）でも作成できます。**コマンドは全て大文字で入力する必要があります。**

構文は以下の要素で構成されています。

Prefix:"~<SOH>0000" (HEX: 7E 01 30 30 30)、6 文字。

Storage type:「@」(HEX: 40) または「#」(HEX: 23)、1 文字。「@」はバーコードリーダーの電源を切っても再起動しても失われない永久的な設定を意味し、「#」はバーコードリーダーの電源を切ったり再起動したりしたら失われる一時的な設定を意味します。

Add Data Format Command: "DFMADD" (HEX: 44 46 4D 41 44 44)、6 文字。

Data format label:「0」(HEX:30)、「1」(HEX:31)、「2」(HEX:32)、「3」(HEX:33)のうちいずれか 1 文字です。「0」、「1」、「2」、「3 」はそれぞれ、Format_0、Format_1、Format_2、Format_3 を表します。

Formatter command type:「6」(HEX: 36)、1 文字。

Interface type:「999」(HEX: 39 39 39)、3 文字。

Symbology ID Number: データフォーマットを適用したいシンボルの ID（3 文字）。999 は全てのシンボルに対応します。

Data length: このシンボルで許容されるデータの長さ（4 文字）。9999 は全ての長さに対応します。例えば、32 文字の場合は「0032」と入力します。

Formatter commands: データの編集に使用するコマンド文字列です。詳細は、本章の「フォーマッターのコマンドタイプ 6」の項を参照してください。

Suffix: ";<ETX>" (HEX: 3B 03)、2 文字。

例: フォーマッタコマンドタイプ 6 を使用して、Format_0 データフォーマットをプログラムすると、Code 128 には 10 文字が適用され、「A」の前の全ての文字が送信されます。

Enter: **7E 01 30 30 30 30 40 44 46 4D 41 44 44 30 36 39 39 39 30 30 33 39 39 39 39 46 31 34 31 3B 03**

(~<SOH>0000@DFMADD069990020010F141;<ETX>)

レスポンス: **02 01 30 30 30 30 40 44 46 4D 41 44 44 30 36 39 39 39 30 30 33 39 39 39 39 46 31 34 31 06 3B 03**

(<STX><SOH>0000@DFMADD069990020010F141<ACK>;<ETX>)

ラベルを共有する複数のデータフォーマットを作成する場合は、以下のようにシリアルコマンドの縦棒（|）でフォーマットを区切ります。

例: ~<SOH>0000@DFMADD069990020010F141|069990039999F142|069990049999F143;<ETX>

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

データフォーマッタを有効 / 無効

データフォーマッタが無効である場合、有効にしたデータフォーマットが無効にされます。

@DFMENA0
**** データフォーマッタ　無効**

自分で作成したデータフォーマットにデータを適合させる必要がある場合があります。以下の設定は、作成したデータフォーマットに適用できます。

データフォーマッタ有効、必須、プレフィックス/サフィックスを保持： データ形式の要件を満たすスキャンデータは、それに応じて変更され、プレフィックスとサフィックスとともに出力されます（プレフィックスとサフィックスが有効になっている場合）。データ形式の要件に一致しないデータがあると、エラービープ音が鳴り（**不一致エラー　ブザー　有効**の場合）、そのバーコードのデータは送信されません。

データフォーマッタ有効、必須、プレフィックス/サフィックスを削除： データ形式の要件を満たすスキャンデータは、それに応じて変更され、プレフィックスとサフィックスなしで出力されます（プレフィックスとサフィックスが有効になっている場合でも）。データ形式の要件に一致しないデータは、エラービープ音を生成し（**不一致エラー　ブザー　有効**の場合）、そのバーコードのデータは送信されません。

データフォーマッタ有効、必須でない、プレフィックス/サフィックスを保持： データ形式の要件を満たすスキャンデータは、それに応じて変更され、プレフィックスとサフィックスとともに出力されます（プレフィックスとサフィックスが有効になっている場合）。データ形式の要件に一致しないバーコードデータは、プレフィックスとサフィックス（プレフィックスとサフィックスが有効になっている場合）とともに読み取られて送信されます。

データフォーマッタ有効、必須でない、プレフィックス/サフィックスを削除：データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、適宜修正され、プリフィックスやサフィックスなしで出力されます（プリフィックスやサフィックスを有効にしている場合も同様）。データフォーマットの要件に適合しないバーコードデータは、プリフィックスとサフィックスとともに、読み取りデータとして送信されます（プリフィックスとサフィックスが有効な場合）。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

@DFMENA1

データフォーマッタ有効、必須、
プレフィックス/サフィックスを保持

@DFMENA2

データフォーマッタ有効、必須、
プレフィックス/サフィックスを削除

@DFMENA3

データフォーマッタ有効、必須でない、
プレフィックス/サフィックスを保持

@DFMENA4

データフォーマッタ有効、必須でない、
プレフィックス/サフィックスを削除

不一致エラー　ブザー

不一致エラー　ブザー　有効の場合、データフォーマットの要件と一致しないバーコードを読み取った際に、バーコードリーダーはエラーのブザーを鳴らします。

@DFMTON0

不一致エラー　ブザー　無効

@DFMTON1

****不一致エラー　ブザー　有効**

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

データフォーマット選択

データフォーマッタ　有効後、以下の適切なバーコードをスキャンして使用したいデータフォーマットを選択できます。

@DFMUSE0
**** Format_0**

@DFMUSE1
Format_1

@DFMUSE2
Format_2

@DFMUSE3
Format_3

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

シングルスキャンでデータフォーマットを切り替え

シングルスキャンしてデータフォーマットを切り替えることができます。次のバーコードは、ここで選択したデータ形式でスキャンされ、その後、上で選択した形式に戻ります。

例えば、Format_3 として保存したデータ形式を使用するようにバーコードリーダーを設定したとします。以下の**シングルスキャン Format_1 切替 バーコード**をスキャンすると、トリガーを 1 回引くだけで Format_1 に切り替えることができます。次にスキャンされるバーコードは、Format_1 を使用し、その後 Format_3 に戻ります。

注:この設定は、バーコードリーダーを電源オフ、デバイスを電源オフまたは再起動すると失われます。

@DFMSIN0

シングルスキャン Format_0 切替

@DFMSIN1

シングルスキャン Format_1 切替

@DFMSIN2

シングルスキャン Format_2 切替

@DFMSIN3

シングルスキャン Format_3 切替

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

データフォーマットをクリア

バーコードリーダーから作成したデータフォーマットを削除する方法は 2 種類あります。

データフォーマットを1件削除：1件クリアバーコード、数字バーコード(0-3)、Save バーコードをスキャンします。例えば、Format_2 を削除する場合、**1件クリアバーコード**、**数字バーコード「2」**、**Save バーコード**をスキャンします。

データフォーマットを全て削除： 全てクリアバーコードをクリアします。

@DFMCAL
全てクリア

@DFMCLR
1件クリア

クエリデータフォーマット

以下の適切なバーコードをスキャンすると、お客様が作成した、またはメーカーが初期設定したデータフォーマットの情報を得ることができます。例えば、本章の「データフォーマットの追加」の項目の例に従って Format_0 を追加した場合、**現在のデータフォーマットを検索バーコード**をスキャンすると、以下のような結果が得られます。

Data Format0:069990020010F141;.

@DFMQCU
現在のデータフォーマットを検索

@DFMQFA
初期設定のデータフォーマットを検索

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

６種類のフォーマッタコマンド

データフォーマッタの操作では、入力データの文字列に沿って仮想カーソルが移動します。以下のコマンドは、このカーソルを別の位置に移動、データの選択、置き換え、最終出力の挿入に使用されます。コマンドに含まれる ASCII 文字の 16 進数については、付録の「ASCII 表」を参照してください。

コマンド送信

F1 全ての文字の送信

Syntax=F1xx (xx: 挿入文字の 16 進数)

現在のカーソル位置から始まり、挿入文字が続く入力メッセージのすべての文字を出力メッセージに含めます。

F2 指定の文字数を送信

構文=F2nnxx(nn:文字数を表す数値(00～99)、xx:挿入文字の 16 進数)。

出力メッセージに、挿入文字が続く文字数を含める。現在のカーソル位置から開始し、「nn 」文字分、または入力メッセージの最後の文字まで続け、その後に文字 「xx 」が続きます。

F2 の例:指定の文字数を送信

上記のバーコードの最初の 10 文字を送信し、その後にキャリッジリターンを入力します。

コマンド文字列: **F2100D**

F2 は指定の文字数を送信コマンドです。

10 は送信する文字数

0D は CR を表す 16 進数

データは次のように出力されます:**1234567890**

<CR>

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

F3　特定文字まで全ての文字を送信

構文=F3ssxx (ss: 特定文字の 16 進数 xx: 挿入文字の 16 進数)

入力メッセージのすべての文字を出力メッセージに含めます。現在のカーソル位置にある文字から始まり、特定の文字「ss」に続く文字「xx」が続きますが、それは含まれません。カーソルは「ss」の文字まで進みます。

F3 の例:特定文字まで全ての文字を送信

上記のバーコードを使って、「D 」までのすべての文字と、それに続くキャリッジリターンを送信します。

コマンド文字列: F3440D

F3 は特定文字まで全ての文字を送信コマンドです。

44 は「D」を表す 16 進数です。

0D は CR を表す 16 進数です。

データは次のように出力されます:**1234567890ABC**
<CR>

E9　最後の文字を除くすべてを送信

Sy 構文=E9nn(nn:メッセージの最後に送信しない文字数を示す数値(00～99))。

現在のカーソル位置から、最後の「nn 」文字を除くすべての文字を出力メッセージに含みます。カーソルは、含まれる最後の入力メッセージ文字の 1 つ前の位置へ移動します。

F4 文字を複数回挿入

構文=F4xxnn(xx:挿入文字の 16 進数、nn:送信回数を示す数値(00-99))。
カーソルを現在の位置に残したまま、出力メッセージに「xx 」文字を「nn」回送信します。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

E9 と F4 の例：ストップキャラクタを除くすべての文字と、それに続く 2 つのタブを送信

上記のバーコードの末尾の 8 文字を除くすべての文字と、それに続く 2 つのタブを送信します。

コマンド文字列：**E908F40902**

E9 は最後の文字を除くすべてを送信コマンドです。

08 は無視する末尾の文字数です。

F4 は文字を複数回挿入コマンド

09 は水平タブを表す 16 進数です。

02 はタブ文字を送信する回数です。

データは次のように出力されます：**1234567890AB<tab><tab>**

B3 シンボル名の挿入

カーソルを移動させずに、バーコードのシンボル名を出力メッセージに挿入します。

B4 バーコードの長さを挿入

カーソルを移動させずに、バーコードの長さを出力メッセージに挿入します。長さは数字の文字列で表され、先頭のゼロは含まれません。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

B3、B4 の例：シンボル名と長さの挿入

上記のバーコードからのバーコードデータの前に、シンボル名と長さを送信します。これらの挿入をスペースで区切ります。キャリッジリターンで終了します。

コマンド文字列: **B3F42001B4F42001F10D**

B3 はシンボル名の挿入コマンドです。。

F4 は 文字を複数回挿入コマンドです。

20 はスペースの 16 進数です。

01 はスペース文字の送信回数です。

B4 はバーコードの長さを挿入コマンドです。。

F4 は 文字を複数回挿入コマンドです。

20 はスペースを表す 16 進数です。

01 はスペース文字の送信回数です。

F1 は全ての文字の送信コマンドです。

0D は CR の 16 進数です。

データは次のように出力されます：**Code128 20 1234567890ABCDEFGHIJ**

<CR>

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

移動コマンド

F5 カーソルを文字数前方に移動

構文=F5nn (nn: カーソルを前方に移動させる文字数を示す数値(00～99))
現在のカーソル位置から「nn」文字分前にカーソルを移動します。

F5 の例:カーソルを前方に移動してデータを送信

カーソルを 3 文字分前方に移動し、残りのバーコードデータを上記のバーコードから送信します。最後に

キャリッジリターンで終了します。

コマンド文字列:**F503F10D**

F5 はカーソルを文字数前方に移動コマンドです。

03 はカーソルを移動させる文字数です。

F1 は全ての文字の送信コマンドです。

0D は CR の 16 進数です。

データは次のように出力されます:**4567890abcdefghij**

<CR>

F6 カーソルを指定の文字数分後ろに移動

構文=F6nn (nn: カーソルを後ろに移動させる文字数を表す数値(00-99))
現在のカーソル位置から「nn 」文字分後ろにカーソルを移動します。

F7 カーソルを先頭に移動

構文＝F7
カーソルを入力メッセージの最初の文字に移動します。

EA カーソルを最後に移動

構文＝EA
カーソルを入力メッセージの最後の文字に移動します。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

検索コマンド

F8 文字列の前方検索

構文＝F8xx (xx: 検索文字の 16 進数)

カーソルが「xx」の文字を指している状態で、入力メッセージを現在のカーソル位置から「xx 」の文字分だけ前方に検索します。

F8 の例: 特定の文字の後から始まるバーコードデータを送信

バーコードで「D」の文字を検索し、「D」を含むその後のデータをすべて送信する。上記のバーコードを使用します。

コマンド文字列:**F844F10D**

F8 は文字列の前方検索コマンドです。

44 は「D 」の 16 進数です。

F1 は全ての文字の送信コマンドです。

0D は「CR 」の 16 進数です。

データは次のように出力されます:**DEFGHIJ**

〈CR〉

F9 文字の後方検索

構文＝F9xx(xx:検索文字の 16 進数)

カーソルが「xx」の文字を指している状態で、入力メッセージを現在のカーソル位置から「xx」の文字へ遡って検索します。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

B0 文字列の前方検索

構文=B0nnnnS (nnnn: 文字列の長さ (9999 まで)、S: 文字列内の各文字の ASCII 16 進数)

カーソルを文字列「S 」に向けたまま、現在のカーソル位置から「S 」まで文字列を前方に検索します。例えば、B0000454657374 は「Test」という 4 文字の文字列の最初の出現箇所を検索します。

B0 の例:文字列の後から始まるバーコードデータを送信

バーコードで「FGH」の文字を検索し、「FGH」を含む後のデータをすべて送信します。上記のバーコードを使用した場合
コマンド文字列:**B00003464748F10D**
B0 は文字列の前方検索コマンドです。
0003 は文字列の長さ(3 文字) です。
46 は「F 」の 16 進数です。
47 は「G 」の 16 進数です。
48 は「H 」の 16 進数です。
F1 は全ての文字の送信コマンドです。
0D は CR の 16 進数です。
データは次のように出力されます:**FGHIJ**
<CR>

B1 文字列の後方検索

構文=B1nnnnS(nnnn:文字列の長さ(9999 まで)、S:文字列中の各文字の ASCII16 進数)。

カーソルを 文字列「S 」に向けたまま、現在のカーソル位置から 文字列「S 」を後方一致検索します。例えば、「B1000454657374」と入力すると、「Test 」という 4 文字の文字列の最初の出現箇所を後方に検索します。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

E6 一致しない文字の前方検索

構文=E6xx (xx: 検索文字の 16 進数)
カーソルを「xx」でない文字に向けたまま、現在のカーソル位置から最初の「xx」でない文字を前方一致検索します。

E6 の例: バーコードデータの先頭のゼロを削除

この例では、先頭がゼロ埋めされたバーコードを示しています。ゼロを無視して、後に続く全てのデータを送信したいとします。E6 は、ゼロではない最初の文字を前方に検索し、その後のすべてのデータを送信し、後にキャリッジリターンが続きます。上記のバーコードを使用した場合

コマンド文字列:**E630F10D**

E6 は一致しない文字の前方検索コマンドです。。

30 は 0 の 16 進数です。

F1 は全ての文字の送信コマンドです。

0D は CR の 16 進数です。

データは次のように出力されます:**123abc**
〈CR〉

E7 一致しない文字を後方検索する

構文＝E7xx(xx: 検索文字の 16 進数)
カーソルを「xx 」ではない文字に向けたまま、現在のカーソル位置から最初の「xx 」ではない文字を後方に検索し、入力メッセージを検索します。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

その他のコマンド

FB 文字数抑止

構文＝FBnnxxyy...zz（nn：抑制する文字数を表す数値（00～15）、xxyy..zz：抑制する文字の 16 進数）

現在のカーソル位置から、他のコマンドでカーソルを進めたときに、最大 15 種類の異なる文字の出現をすべて抑制します。

FB の例：バーコードデータのスペースを削除

ここでは、データにスペースが含まれているバーコードの例を示しています。データを送信する前に、スペースを削除できます。上記のバーコードを使用した場合

コマンド文字列: **FB0120F10D**

FB は文字数抑止コマンドです。。

01 は抑制する文字の番号でし。

20 はスペースを表す 16 進数です。

F1 は全ての文字の送信コマンドです。

0D は CR の 16 進数です。

データは次のように出力されます：**1234_5*678**

<CR>

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

E4 文字の置換

構文＝E4nnxx1xx2yy1yy2...zz1zz2 nn:(置換する文字＋置換される文字)の合計文字数 xx1:置換される文字、xx2:置換する文字、zz1、zz2 と続く)。カーソルを移動させずに、出力メッセージの 15 文字までを置き換えることができます。

E4 の例: バーコードデータのゼロと CR の置換

バーコードにアプリケーションが含めたくない文字がある場合、E4 コマンドを使用してそれらの文字を別の文字に置換することができます。この例では、上記のバーコードのゼロをキャリッジリターンに置換します。

コマンド文字列: **E402300DF10D**

E4 は文字の置換コマンドです。

02 は置換する文字数に置換される文字数を加えた総文字数(0 は CR に置換されるので総文字数＝2)。

30 は 0 の 16 進数です。

0D は CR の 16 進数(0 を置換する文字)です。

F1 は全ての文字の送信コマンドです。

0D は CR の 16 進数です。
データは次のように出力されます: **123**
456
78
AB
<CR>

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

BA　文字列を異なる文字列に置換

構文＝BAnnNN1SS1NN2SS2

nn: 置換する文字列の数。nn=00 または nn>=置換する文字列の出現回数の場合、その文字列の出現回数をすべて置換します。

NN1: 置換される文字列の長さ、NN1>0。

SS1:置換される文字列の各文字の ASCII16 進数です。

NN2: 置換される文字列の長さ、NN2>=0。

文字列「SS1 」を NUL に置換する(すなわち、文字列「SS1」の削除)には、NN2 を 00 に設定し、SS2 を省略する必要があります。

SS2: 置換文字列の各文字の ASCII 16 進数です。
現在のカーソル位置から、「SS1 」文字列(長さ「NN1」)の出現箇所を前方検索し、「SS1 」文字列がすべて置換されるか、カーソルを動かさずに置換回数が「nn 」回に達するまで、出力メッセージ内の「SS2」文字列(長さ「NN2」)と置換します。

BA の例:「23」をバーコードデータの「ABC」と置換

アプリケーションが含めたくない文字列がバーコードに存在する場合、BA コマンドでその文字列を別の文字列に置き換えることができます。この例では、上記のバーコードの「23」を「ABC」に置き換えます。

コマンド文字列: **BA00023233034142 43F100**

BA は文字列を異なる文字列に置換コマンドです。。

00 は置換する文字列の数、00 はその文字列のすべてを置換することを意味します。

02 は置換される文字列の長さです。

32 は 2(置換される文字列の文字)の 16 進数です。

33 は 3(置換される文字列の文字)の 16 進数です。

03 は置換後の文字列の長さです。

41 は A (置換文字列中の文字)の 16 進数です。

42 は B (置換文字列中の文字) の 16 進数です。

43 は C (置換文字列中の文字)の 16 進数です

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

F1 は全ての文字の送信コマンドです。

00 は NUL の 16 進数です。

データは次のように出力されます: **1ABC4AbcABCR01ABCU**

BA の例:バーコードデータに最初の「23」の発生だけを除去

バーコードにアプリケーションが削除したい文字列がある場合、BA コマンドで文字列を NUL に置き換えることができます。この例では、上記のバーコードで最初に出現する「23」を削除します。

コマンド文字列: **BA0102323300F100**

BA は文字列を異なる文字列に置換コマンドです。。

01 は置換する文字列の数です。

02 は置換される文字列の長さです。

32 は 2(置換される文字列の文字)の 16 進数です。

33 は 3(置換される文字列の文字)の 16 進数です。

00 は置換する文字列の長さ、00 は置換する文字列を NUL で置換することを意味します。

F1 は全ての文字の送信コマンドです。

00 は NUL の 16 進数です。

データは次のように出力されます: **14Abc23R0123U**

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

EF 遅延を挿入

構文＝EFnnnn（nnnnn：5ms 単位で最大 9999 までの遅延）。

現在のカーソル位置から最大 49,995 ミリ秒（5 の倍数ごとに）の遅延を挿入します。このコマンドは、USB HID キーボードでのみ実行可能です。

EF の例：5 文字目と 6 文字目の間に 1 秒の遅延を挿入

バーコードの最初の 5 文字を送信し、1 秒後、残りのバーコードデータの文字を送信します。

コマンド文字列: **F20500EF0200E900**

2 は Send a number of characters コマンドです。

05 は送信する文字数です。

00 は Null 文字の 16 進数です。

EF は Insert a delay コマンドです。

0200 は遅延の値(5ms×200=1000ms=1s)です。

E9 は最後の文字を除くすべてを送信コマンドです。

00 はメッセージの最後に送信されない文字の数です。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

B5 キーストロークの挿入

構文=B5nnssxx（nn：押されたキーの数（キー修飾子なし）、ss：下表のキー修飾子、xx：付録の「Unicode Key Maps」のキー番号）。

キーストロークまたはキーストロークの組み合わせを挿入します。キーストロークはご利用のキーボードによって異なります（付録の「Unicode Key Maps」を参照）。このコマンドは、USB HID キーボードでのみ使用できます。

キー修飾子	
キー修飾子なし	00
左 Shift キー	01
右 Shift キー	02
左 Alt キー	04
右 Alt キー	08
左 Ctrl キー	10
右 Ctrl キー	20

例えば、B501001F は、アメリカ式キーボードで「a」を挿入します。B5 はコマンド、01 は押されたキーの数（キー修飾子なし）、00 はキー修飾子なし、1F は「a」のキーです。仮に「A」が挿入された場合、B501011F または B501021F が入力されます。

キーストロークが 2 回の場合、構文は 1 回のキーストロークの Syntax=B5nnssxx から、Syntax=B5nnssxxssxx に変わります。「aA」の挿入例は右の通りです：B502001F011F

注：キー修飾子は、必要に応じて一緒に追加することができます。例 左 Shift + 左 Alt + 左 Ctrl =15

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

比較コマンド

B2 文字列を B@で比較

構文= B2nnnnSS1SSn (nnnn:文字列の長さ、SS1- SSn:文字列の 16 進数)
比較は現在のカーソル位置の右側から始まり、カーソルは nnnnn 文字だけ右に移動します。カーソル移動範囲内の文字列が SS1SSn と等しければ、命令は実行を続け、そうでない場合は終了します。

B2 の例:指定した文字列の後にデータを送信

上記のバーコードは、「Test 」文字列で始まり、Test 文字列の内容を送信する必要があり、最後にキャリッジリターンが必要となります。
コマンド文字列: B2000454657374F10D
B2 は comparison of the character string コマンドです。
0004 は文字列の長さ(4 文字)です。
54 は「T」の 16 進数です。
65 は「e」の 16 進数です。
73 は「s」の 16 進数です。
74 は「T」の 16 進数です。
F1 は全ての文字の送信コマンドです。
0D はキャリッジリターンの 16 進数です。
データは次のように出力されます:**123456**
<CR>

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

EC カーソルの右にある文字が数字か確認

このコマンドは設定を受け付けません。カーソルの右側の文字が数字でない場合は、現在のコマンドを終了し、数字の場合は実行を継続します。

EC の例：数字の文字で始まるバーコードデータを送信

上記のバーコードは数字の文字で始まり、バーコードデータの送信が必要であり、最後にキャリッジリターンを送信します。
コマンド文字列: **ECF10D**
EC はカーソルの右にある文字が数字か確認コマンドです。。
F1 は全ての文字の送信コマンドです。
0D は CR の 16 進数です。
データは次のように出力されます: **0000123abc**
<CR>

ED カーソルの右にある文字が非数字か確認

このコマンドは設定を受け付けません。カーソルの右側の文字が数字の場合は現在のコマンドを終了し、数字でない場合は実行を継続します。

ED の例：非数字で始まるバーコードデータの送信

上記のバーコードは、数字以外の文字で始まり、バーコードデータの送信が必要であり、最後にキャリッジリターンを送信します。
コマンド文字列: **EDF10D**
ED はカーソルの右にある文字が非数字か確認コマンドです。
F1 は全ての文字の送信コマンドです。
0D はキャリッジリターンの 16 進数です。
データは次のように出力されます:**Test123456**
<CR>

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

FE 文字比較

構文 = FExx (xx は文字の 16 進数)
現在のカーソル位置の右側にある文字が xx であれば実行を続け、xx でなければ終了します。

FE の例:「1」の文字で始まるバーコードであり、バーコードの最初の 6 バイトを送信

上記のバーコードは、文字「1 」で始まり、「1 」の文字と次の 5 文字を送信する必要があります。
コマンド文字列: **FE31F7F2060D**
FE は Character Compare コマンドです。
31 は「1 」の文字の 16 進数です。
F7 はカーソルを先頭に移動コマンドです。。
F2 は指定の文字数を送信コマンドです。
06 は文字数です。
0D はキャリッジリターンの 16 進数です。
データは次のように出力されます:**123456**
<CR>

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

第 7 章　プリフィックス&サフィックス

概要

1 次元バーコードには、数字、文字、記号などのデータが含まれています。2 次元バーコードは、漢字やその他のマルチバイト文字など、より多くのデータを含むことができます。しかし、実際の利用において、バーコードを短く柔軟性を保つために、バーコードの種類、データ取得時間、区切り文字など、必要なすべての情報を持たず、持つべきではありません。
上記の要件を満たす方法に、プリフィックスとサフィックスがあります。これらは、元のバーコードデータを維持したまま、追加、削除、変更することができます。

バーコード処理プロセス

1. データフォーマッタでデータ編集
2. プリフィックスとサフィックスの追加
3. データをパッキング
4. ストップキャラクタの追加

グローバル設定

全てのサフィックスとプリフィックスを有効 / 無効

サフィックスとプリフィックス　無効：プリフィックス/サフィックスを追加せずにバーコードデータを送信します。

サフィックスとプリフィックス　有効： Code ID プリフィックス、AIM ID プリフィックス、カスタムプリフィックス/サフィックス、ストップキャラクタをバーコードデータに付加して送信することを許可します。

@APSENA0
**** サフィックスとプリフィックス　無効**

@APSENA1
サフィックスとプリフィックス　有効

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

プリフィックスシーケンス

@PRESEQ0

Code ID+ Custom +AIM ID

@PRESEQ1

**** Custom + Code ID + AIM ID**

カスタムプリフィックス

カスタムプリフィックス の有効 / 無効

カスタムプリフィックスを有効にすると、データに 10 文字を超えないユーザー定義のプリフィックスを付加することができます。例えば、カスタムプリフィックスが「AB」で、バーコードデータが「123」の場合、接続端末は「AB123」を受信します。

@CPRENA0

**** カスタムプリフィックス　無効**

@CPRENA1

カスタムプリフィックス　有効

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

カスタムプリフィックスの設定

カスタムプリフィックスを設定する場合、**カスタムプリフィックス設定バーコード**をスキャンし、次に必要なプリフィックスの **16 進数の値に対応する数字バーコード**をスキャンし、**Save バーコード**をスキャンして完了です。

注:カスタムプリフィックスは、10 文字を超えることはできません。

@CPRSET
カスタムプリフィックス設定

Example

カスタムプリフィックスを「CODE」(HEX: 0x43/0x4F/0x44/0x45)に設定する方法

1. **Enter Setup バーコード**をスキャンします。
2. **カスタムプリフィックス設定バーコード**をスキャンします。
3. **「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「4」、「3」、「4」、「F」、「4」、「4」、「4」、「5」** をスキャンします。
4. 付録 の**「保存/キャンセル バーコード」** セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **カスタムプリフィックス 有効バーコード**をスキャンします。
6. **Exit Setup バーコード**をスキャンします。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

AIM IDプリフィックス

AIM(Automatic Identification Manufacturers:自動認識工業会)IDは、シンボル識別子を定義します(詳細については、付録の「AIM IDテーブル」のセクションを参照してください)。AIM IDプリフィックスを有効にすると、バーコードリーダーは読み取り後のスキャンデータの前にシンボル識別子を追加します。

@AIDENA0

**** AIM IDプリフィックス　無効**

@AIDENA1

AIM IDプリフィックス　有効

AIM IDはユーザーがプログラムできません 。

Code IDプリフィックス

Code IDは、バーコードの種類を識別するためにも使用できます。AIM IDとは異なり、Code IDはユーザーがプログラムできます。CodeIDは、1文字または、2文字の英字で構成されています。

@CIDENA0

**** Code IDプリフィックス　無効**

@CIDENA1

Code IDプリフィックス　有効

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

全ての Code ID をデフォルトに復元

デフォルトの Code ID については、付録の「Code ID 表」の項目を参照してください。

@CIDDEF
全てデフォルト Code ID を復元

Code ID の変更

CodeID を変更し、各シンボルのデフォルトの CodeID を復元方法については、以下の例を参照してください。

Example

PDF417 Code ID を「p」(HEX: 0x70)に変更する方法

1. **Enter Setup バーコード**をスキャンします。
2. **PDF417 Code ID を変更バーコード**をスキャンします。
3. **「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「7」、「0」**をスキャンします。
4. 付録 の**「保存/キャンセル バーコード」**セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **Exit Setup バーコード**をスキャンします。

各シンボルの Code ID をデフォルトに戻す方法

1. **Enter Setup バーコード**をスキャンします。
2. **全てデフォルト Code ID を復元バーコード**をスキャンします。
3. **Exit Setup バーコード**をスキャンします。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

1 次元シンボル

@CID002

Code 128 Code ID を変更

@CID003

GS1-128 Code ID を変更

@CID004

JAN-8 Code ID を変更

@CID005

JAN-13 Code ID を変更

@CID006

UPC-E Code ID を変更

@CID007

UPC-A Code ID を変更

@CID008

Interleaved 2 of 5 Code ID を変更

@CID009

ITF-14 Code ID を変更

@CID010

ITF-6 Code ID を変更

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

@CID011

Matrix 2 of 5　Code ID を変更

@CID013

Code 39　Code ID を変更

@CID015

NW7（CODABAR）　Code ID を変更

@CID017

Code 93　Code ID を変更

@CID020

Modify AIM 128 Code ID

@CID023

ISSN　Code ID を変更

@CID024

ISBN　Code ID を変更

@CID025

Industrial 25　Code ID を変更

@CID026

Standard 25　Code ID を変更

@CID027

Plessey　Code ID を変更

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

@CID028

Code 11 Code ID を変更

@CID029

MSI-Plessy Code ID を変更

@CID031

GS1 Databar Code ID を変更

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

2 次元シンボル

@CID032
PDF417 Code ID を変更

@CID033
QR コード ID を変更

@CID043
Micro QR コード ID を変更

@CID035
Data Matrix Code ID を変更

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

カスタムサフィックス

カスタムサフィックスを有効 / 無効

カスタムサフィックスを有効にすると、データに 10 文字を超えないユーザー定義のサフィックスを付加することができます。例えば、カスタムサフィックスが「AB」で、バーコードデータが「123」の場合、接続端末は「123AB」を受信します。

@CSUENA0

**** カスタムサフィックス　無効**

@CSUENA1

カスタムサフィックス　有効

カスタムサフィックスの設定

カスタムサフィックスを設定する場合、SetCustomSuffix バーコードをスキャンし、次に必要なサフィックスの 16 進数の値に対応する数字バーコードをスキャンし、Save バーコードをスキャンして完了です。

注:カスタムサフィックスは、10 文字を超えることはできません。

@CSUSET

カスタムサフィックスの設定

Example

カスタムサフィックスを「CODE」
(HEX: 0x43/0x4F/0x44/0x45)に設定する方法

1.**Enter Setup バーコード**をスキャンします。

2. **カスタムサフィックスの設定バーコード**をスキャンします。

3. **「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「4」、「3」、「4」、「F」、「4」、「4」、「4」、「5」** をスキャンします。

4.付録 の**「保存/キャンセル　バーコード」** セクションの**保存バーコード**をスキャンします。

5. **カスタムサフィックス　有効バーコード**をスキャンします。

6.**Exit Setup バーコード**をスキャンします。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

データパッキング

概要

データパッキングは、送信前にデータをパックしてほしいという特定のユーザーのために設計されています。データパッキングはデータフォーマットに影響を与えるため、この機能が必要ない場合は無効にすることをお勧めします。

データパッキングオプション

データパッキング　無効：読み取ったデータを生のフォーマッ ト(パケットなし)で送信します。

データパッキング、フォーマット 1　有効 ： 読み取ったデータを以下のパケットフォーマット 1 で送信します。

Packet format 1: [STX + ATTR + LEN] + [AL_TYPE + DATA] + [LRC]

STX：0x02

ATTR：0x00

LEN：バーコードデータの長さを、0x0000(0)から 0xFFFF(65535)までの 、2 バイトで表示。

AL_TYPE: 0x36

DATA：バーコードの生データ。

LRC：チェックキャラクタ

LRC の計算アルゴリズム：計算シーケンス

0xFF+LEN+AL_TYPE+DATA：計算方法は XOR、1 バイト毎に計算。

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

データパッキング、フォーマット 2　有効：読み取ったデータを以下のパケットフォーマット 2 で送信します。

Packet format 2: [STX + ATTR + LEN] + [AL_TYPE] + [Symbology_ID + DATA] + [LRC]

STX: 0x02

ATTR: 0x00

LEN：バーコードデータの長さを、0x0000（0）から 0xFFFF（65535）までの 2 バイトで表示。

AL_TYPE: 0x3B

Symbology_ID: シンボルの ID 番号、1 バイト。

DATA: 生バーコードデータ

LRC: チェックキャラクタ
LLRC 計算アルゴリズム：計算シーケンス
0xFF+LEN+AL_TYPE+Symbology_ID+DATA、計算方法は XOR、1 バイト毎に計算。

@PACKAG0

**** データパッキング　無効**

@PACKAG1

データパッキング　フォーマット 1　有効

@PACKAG2

データパッキング　フォーマット 2　有効

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

終端サフィックス

終端サフィックスを有効 / 無効

キャリッジリターン(CR)やキャリッジリターン/ラインフィード(CRLF)などのストップキャラクタは、データの終わりを示すためにのみ使用することができ、その後には何も加えることができません。

@TSUENA0
終端サフィックス　無効

@TSUENA1
**** 終端サフィックス　有効**

終端サフィックスの設定

終端サフィックスを設定する場合、SetTerminatingCharacterSuffix バーコードをスキャンし、次に必要な終端サフィックスの 16 進数の値に対応する数字バーコードをスキャンし、Save バーコードをスキャンして完了です。

注:ストップキャラクタのサフィックスは、2 文字を超えることはできません。

@TSUSET
終端サフィックスの設定

@TSUSET0D
ストップキャラクタを CR (0x0D)に設定

@TSUSET0D0A
ストップキャラクタを CRLF (0x0D,0x0A)に設定

@SETUPE0
**** Exit Setup**

@SETUPE1

Enter Setup

Example

ストップキャラクタのサフィックスを 0x0A に設定する方法

1. **Enter Setup バーコード**をスキャンします。
2. **終端サフィックスの設定バーコード**をスキャンします。
3. **「数字バーコード」**セクションにある**数字バーコード「0」、「A」**をスキャンします。
4. 付録 の**「保存/キャンセル　バーコード」** セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **終端サフィックス　有効バーコード**をスキャンします。
6. **Exit Setup バーコード**をスキャンします。

@SETUPE0

**** Exit Setup**

@SETUPE1
Enter Setup

付録

数字バーコード 0~9

@DIGIT0
0

@DIGIT1
1

@DIGIT2
2

@DIGIT3
3

@DIGIT4
4

@DIGIT5
5

@DIGIT6
6

@DIGIT7
7

@DIGIT8
8

@DIGIT9
9

@SETUPE0
**** Exit Setup**

英字バーコード　A～F

@DIGITA
A

@DIGITB
B

@DIGITC
C

@DIGITD
D

@DIGITE
E

@DIGITF
F

保存/キャンセル　バーコード

数字のバーコードを読み取った後、データを保存するためには、保存バーコードをスキャンする必要があります。間違った桁をスキャンした場合は、Cancel バーコードをスキャンして設定を最初からやり直すか、Delete the Last Digit バーコードをスキャンして正しい桁をスキャンするか、または Delete All Digits バーコードをスキャンして希望する桁をスキャンすることができます。

例:最大桁のバーコードと数字のバーコード「1」、「2」、「3」を読み取った後、スキャンした場合

☆**最後の桁を削除：**「3」が削除されます。

☆**すべての桁を削除：**123 」が全て削除されます。

☆**キャンセル：**大桁の設定がキャンセルされます。また、バーコードリーダーはまだセットアップモードのままです。

@DIGSAV
保存

@DIGCAN
キャンセル

@DIGDEL
最後の桁を削除

@DIGDAL
すべての桁を削除

工場出荷時のデフォルト設定

パラメータ	工場出荷時の設定	備考
システム設定		
バーコードプログラミング	無効 (Exit Setup)	
設定バーコードデータ	送信しない	
照明	通常	
正常読み取り LED	有効	
正常読み取り LED の持続時間	延長 (500ms)	
電源ブザー	有効	
正常読み取りブザー	有効	
正常読み取り ブザー音の長さ	100ms	
正常読み取り ブザーの音域	中 (3940Hz)	
正常読み取り ブザー音量	低	
スキャンモード	センスモード	
手ぶれ補正タイムアウト(センスモード)	100ms	0-3,000ms
読み取り間隔のタイムアウト(連続モード)	200ms	0-65,535ms
読み取り間隔のタイムアウト (同一バーコードの場合)	無効	
	1,500ms	0-65,535ms
センスモードの感度	感度強化	
自動スリープ	有効	
スリープモードに入るまでの時間	500ms	
スキャン設定	ノーマルモーショントレランス	
読み取りエラーメッセージ	読み取りエラーメッセージ 無効	
	none	1-7 characters
デフォルトインターフェース	USB HID Keyboard	
RS-232 インターフェイス		
ボーレート	9600	
パリティチェック	None	
データビット	8	
ストップビット	1	
USB インターフェイス		
USB 国別キーボードタイプ	日本	USB HID Keyboard
ブザーによる不明な文字の警告	不明な文字を警告しない	USB HID Keyboard
Emulate ALT+キーボード	無効	USB HID Keyboard
コードページ	Code Page 932 (日本語、JIS)	USB HID Keyboard
Unicode エンコーディング	Off	USB HID Keyboard
先頭 0 付きキーボードエミュレーション	On	USB HID Keyboard
ファンクションキーマッピング	無効	USB HID Keyboard

パラメータ	工場出荷時の設定	備考
文字間のディレイ	10ms	USB HID Keyboard
大文字・小文字の変換	変換なし	USB HID Keyboard
テンキーのエミュレート	無効	USB HID Keyboard
ポーリングレート	1ms	USB HID Keyboard
シンボル		
ビデオリバース(映像反転)	無効	
Code 128		
Code 128	有効	
最大桁	127	
最小桁	1	
チェックキャラクタの送信	送信しない	
JAN-8		
JAN-8	有効	
チェックキャラクタの送信	Transmit	
2 桁のアドオンコード	無効	
5 桁のアドオンコード	無効	
アドオンコード必須	必須としない	
JAN-13		
JAN-13	有効	
チェックキャラクタの送信	送信する	
2 桁のアドオンコード	無効	
5 桁のアドオンコード	無効	
アドオンコード必須	必須としない	
290 で始まる JAN-13 バーコードのアドオンコード必須	アドオンコード必須としない	
378/379 で始まる JAN-13 バーコードのアドオンコード必須	アドオンコード必須としない	
414/419 で始まる JAN-13 バーコードのアドオンコード必須	アドオンコード必須としない	
434/439 で始まる JAN-13 バーコードのアドオンコード必須	アドオンコード必須としない	
977 で始まる JAN-13 バーコードのアドオンコード必須	アドオンコード必須としない	
978 で始まる JAN-13 バーコードのアドオンコード必須	アドオンコード必須としない	
979 で始まる JAN-13 バーコードのアドオンコード必須	アドオンコード必須としない	

パラメータ	工場出荷時の設定	備考
UPC-E		
UPC-E	有効	
チェックキャラクタの送信	送信する	
2 桁のアドオンコード	無効	
5 桁のアドオンコード	無効	
アドオンコード必須	必須としない	
システムキャラクター	送信する	
UPC-A		
UPC-A	有効	
チェックキャラクタの送信	送信する	
2 桁のアドオンコード	無効	
5 桁のアドオンコード	無効	
アドオンコード必須	必須としない	
プリアンブルキャラクターの送信	**システムキャラクター**	
Interleaved 2 of 5		
Interleaved 2 of 5	有効	
最大桁	100	
最小桁	6	4 桁以上
チェックキャラクタの送信	無効	
Febraban		
Febraban	無効	
文字間のディレイ	無効	
	70ms	
12 文字のディレイ	無効	
	500ms	
ITF-14		
ITF-14	ITF-14　有効 チェックキャラクタを送信しない	
ITF-6	無効	
Matrix 2 of 5		
Matrix 2 of 5	無効	
最大桁	127	
最小桁	6	4 桁以上
チェックキャラクタの送信	確認後　チェックキャラクタを送信しない	
Code 39		
Code 39	有効	
最大桁	127	
最小桁	1	

パラメータ	工場出荷時の設定	備考
チェックキャラクタの送信	無効	
スタート/ストップキャラクタを送信	送信しない	
Code 39 Full ASCII	有効	
Code 32 (イタリア製薬業界用コード)	無効	
Code 32 プリフィックス	無効	
Code 32 スタート/ストップキャラクタを送信	送信しない	
Code 32 チェックキャラクタの送信	送信しない	
NW7(CODABAR)		
NW7(CODABAR)	有効	
最大桁	127	
最小桁	1	
チェックキャラクタの送信	無効	
スタート/ストップキャラクタを送信	送信しない	
	ABCD/ABCD	
Code 93		
Code 93	有効	
最大桁	127	
最小桁	3	1 桁以上
チェックキャラクタの送信	確認後　チェックキャラクタを送信しない	
GS1-128 (UCC/EAN-128)		
GS1-128	有効	
最大桁	127	
最小桁	1	
チェックキャラクタの送信	送信しない	
GS1 Databar		
GS1 Databar	有効	
アプリケーション識別子「01」を送信	送信する	
Code 11		
Code 11	有効	
最大桁	127	
最小桁	2	4 桁以上
チェックキャラクタの送信	チェックキャラクタ 1 文字, MOD11	
チェックキャラクタの送信	送信しない	
ISBN		
ISBN	有効	
ISBN フォーマットを設定	ISBN-10	
2 桁のアドオンコード	無効	
5 桁のアドオンコード	無効	

パラメータ	工場出荷時の設定	備考
アドオンコード必須	必須としない	
ISSN		
ISSN	無効	
2 桁のアドオンコード	無効	
5 桁のアドオンコード	無効	
アドオンコード必須	必須としない	
Industrial 25		
Industrial 25	有効	
最大桁	127	
最小桁	6	4 桁以上
チェックキャラクタの送信	無効	
Standard 25		
Standard 25	有効	
最大桁	127	
最小桁	6	4 桁以上
チェックキャラクタの送信	無効	
Plessey		
Plessey	有効	
最大桁	127	
最小桁	1	4 桁以上
チェックキャラクタの送信	確認後　チェックキャラクタを送信しない	
MSI-Plessey		
MSI-Plessey	有効	
最大桁	127	
最小桁	2	4 桁以上
チェックキャラクタの送信	チェックキャラクタ 1 文字, MOD10	
チェックキャラクタの送信	送信しない	
AIM 128		
AIM 128	有効	
最大桁	127	
最小桁	1	
チェックキャラクタの送信	送信しない	
PDF417		
PDF417	有効	
最大桁	2710	
最小桁	1	
PDF417 ツインコード	シングル PDF417 のみ	
キャラクタエンコーディング	キャラクタエンコーディング　初期設定	

パラメータ	工場出荷時の設定	備考
QR コード		
QR コード	有効	
最大桁	7089	
最小桁	1	
QR ツインコード	シングル QR のみ	
キャラクタエンコーディング	キャラクタエンコーディング　初期設定	
Data Matrix		
Data Matrix	有効	
最大桁	3116	
最小桁	1	
Data Matrix ツインコード	シングル Data Matrix のみ	
長方形バーコード	有効	
キャラクタエンコーディング	キャラクタエンコーディング　初期設定	
データフォーマッター		
データフォーマッター	無効	
不一致エラー　ブザー	不一致エラー　ブザー　有効	
データフォーマット選択	Format_0	
プリフィックス&サフィックス		
全てのサフィックスとプリフィックス	無効	
プリフィックスシーケンス	Custom Prefix+Code ID+AIM ID	
Custom プリフィックス	無効	
AIM ID プリフィックス	無効	
Code ID プリフィックス	無効	
カスタムサフィックス	無効	
データパッキング	データパッキング　無効	
終端サフィックス	有効	

AIM ID テーブル

シンボル	AIM ID	Possible AIM ID Modifiers (m)
Code 128	]C0	
GS1-128 (UCC/EAN-128)	]C1	
JAN-8	]E4	
JAN-8 アドオン付き	]E3	
JAN-13	]E0	
JAN-13 アドオン付き	]E3	
UPC-E	]E0	
UPC-E アドオン付き	]E3	
UPC-A	]E0	
UPC-A アドオン付き	]E3	
Interleaved 2 of 5, Febraban	]Im	0, 1, 3
ITF-14	]Im	1, 3
ITF-6	]Im	1, 3
Matrix 2 of 5	]X0	
Code 39	]Am	0, 1, 3, 4, 5, 7
NW7(CODABAR)	]Fm	0, 2, 4
Code 93	]G0	
AIM 128	]C2	
ISSN	]X0	
ISBN	]X0	
Industrial 25	]S0	
Standard 25	]R0	
Plessey	]P0	
Code 11	]Hm	0, 1, 3
MSI Plessey	]Mm	0, 1
GS1 Databar (RSS)	]e0	
PDF417	]Lm	0-2
QR コード	]Qm	0-6
Data Matrix	]dm	0-6

注:「m 」は AIM 修飾文字を表します。AIM 修飾文字の詳細については、ISO/IEC 15424:2008 Information technology – Automatic identification and data capture techniques – Data Carrier Identifiers (including Symbology Identifiers) を参照ください。

Code ID テーブル

シンボル	Code ID
Code 128	j
GS1-128 (UCC/EAN-128)	j
JAN-8	d
JAN-13	d
UPC-E	c
UPC-A	c
Interleaved 2 of 5, Febraban	e
ITF-14	e
ITF-6	e
Matrix 2 of 5	v
Code 39	b
NW7(CODABAR)	a
Code 93	i
AIM 128	X
ISBT 128	X
ISSN	g
ISBN	B
Industrial 25	I
Standard 25	f
Plessey	n
Code 11	H
MSI Plessey	m
GS1 Databar (RSS)	R
PDF417	r
QR コード	s
Data Matrix	u

シンボル ID 番号

シンボル	ID Number
Code 128	002
GS1-128 (UCC/EAN-128)	003
JAN-8	004
JAN-13	005
UPC-E	006
UPC-A	007
Interleaved 2 of 5, Febraban	008
ITF-14	009
ITF-6	010
Matrix 2 of 5	011
Code 39	013
NW7 (CODABAR)	015
Code 93	017
AIM 128	020
ISBT 128	021
ISSN	023
ISBN	024
Industrial 25	025
Standard 25	026
Plessey	027
Code11	028
MSI-Plessey	029
GS1 Databar (RSS)	031
PDF417	032
QR コード	033
Data Matrix	035

ASCII テーブル

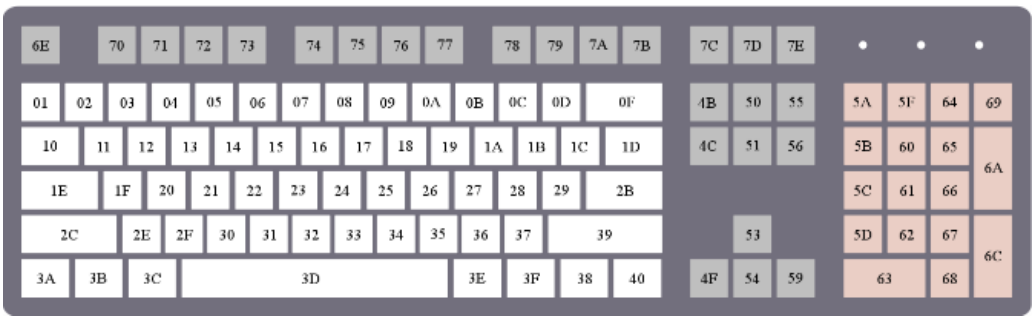
Hex	Dec	Char
00	0	NUL (Null char.)
01	1	SOH (Start of Header)
02	2	STX (Start of Text)
03	3	ETX (End of Text)
04	4	EOT (End of Transmission)
05	5	ENQ (Enquiry)
06	6	ACK (Acknowledgment)
07	7	BEL (Bell)
08	8	BS (Backspace)
09	9	HT (Horizontal Tab)
0a	10	LF (Line Feed)
0b	11	VT (Vertical Tab)
0c	12	FF (Form Feed)
0d	13	CR (Carriage Return)
0e	14	SO (Shift Out)
0f	15	SI (Shift In)
10	16	DLE (Data Link Escape)
11	17	DC1 (XON) (Device Control 1)
12	18	DC2 (Device Control 2)
13	19	DC3 (XOFF) (Device Control 3)
14	20	DC4 (Device Control 4)
15	21	NAK (Negative Acknowledgment)
16	22	SYN (Synchronous Idle)
17	23	ETB (End of Trans. Block)
18	24	CAN (Cancel)
19	25	EM (End of Medium)
1a	26	SUB (Substitute)
1b	27	ESC (Escape)
1c	28	FS (File Separator)
1d	29	GS (Group Separator)
1e	30	RS (Request to Send)
1f	31	US (Unit Separator)
20	32	SP (Space)
21	33	! (Exclamation Mark)
22	34	″ (Double Quote)

Hex	Dec	Char
23	35	# (Number Sign)
24	36	$ (Dollar Sign)
25	37	% (Percent)
26	38	& (Ampersand)
27	39	` (Single Quote)
28	40	((Left/ Opening Parenthesis)
29	41	) (Right/ Closing Parenthesis)
2a	42	* (Asterisk)
2b	43	+ (Plus)
2c	44	, (Comma)
2d	45	- (Minus/ Dash)
2e	46	. (Dot)
2f	47	/ (Forward Slash)
30	48	0
31	49	1
32	50	2
33	51	3
34	52	4
35	53	5
36	54	6
37	55	7
38	56	8
39	57	9
3a	58	: (Colon)
3b	59	; (Semi-colon)
3c	60	< (Less Than)
3d	61	= (Equal Sign)
3e	62	> (Greater Than)
3f	63	? (Question Mark)
40	64	@ (AT Symbol)
41	65	A
42	66	B
43	67	C
44	68	D
45	69	E
46	70	F
47	71	G
48	72	H

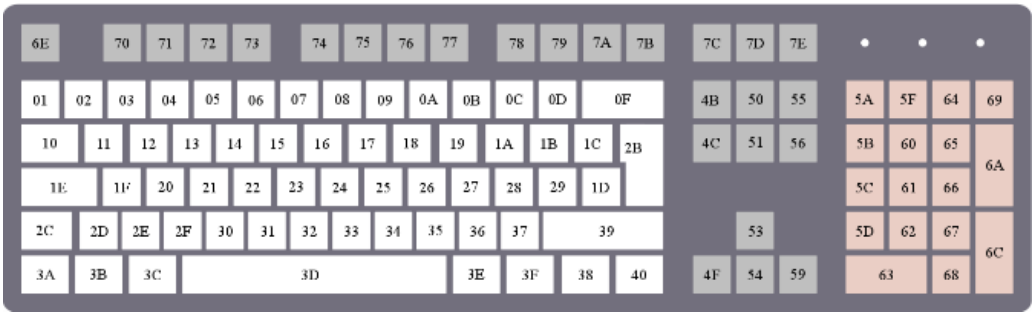
Hex	Dec	Char
49	73	I
4a	74	J
4b	75	K
4c	76	L
4d	77	M
4e	78	N
4f	79	O
50	80	P
51	81	Q
52	82	R
53	83	S
54	84	T
55	85	U
56	86	V
57	87	W
58	88	X
59	89	Y
5a	90	Z
5b	91	[(Left/ Opening Bracket)
5c	92	¥ (Back Slash)
5d	93	] (Right/ Closing Bracket)
5e	94	^ (Caret/ Circumflex)
5f	95	_ (Underscore)
60	96	’ (Grave Accent)
61	97	a
62	98	b
63	99	c
64	100	d
65	101	e
66	102	f
67	103	g
68	104	h
69	105	i
6a	106	j
6b	107	k
6c	108	l
6d	109	m
6e	110	n

Hex	Dec	Char
6f	111	o
70	112	p
71	113	q
72	114	r
73	115	s
74	116	t
75	117	u
76	118	v
77	119	w
78	120	x
79	121	y
7a	122	z
7b	123	{ (Left/ Opening Brace)
7c	124	| (Vertical Bar)
7d	125	} (Right/ Closing Brace)
7e	126	~ (Tilde)
7f	127	DEL (Delete)

Unicode キー配置表



アメリカ式キーボード（104 キー）



欧州式キーボード（105 キー ）

BUSICOM